

YAMAHA
Clavinova®

CLP-152
CLP-153
CLP-154

取扱説明書

このたびは、ヤマハ・クラビノーバを
お買い求めいただきまして、
まことにありがとうございました。

クラビノーバの機能を十分に生かして
演奏をお楽しみいただくために、
この「取扱説明書」をご活用ください。
お読みになったあとは、いつでも
ご覧になれるところに大切に保管して
くださいますよう、お願い申し上げます。

本書の構成

はじめに

「はじめに」では、クラビノーバの特長や、お使いになる上でのご注意、読みたいページの見つけかた、各部の名称とはたらきなどについて説明します。

クラビノーバを最初にお使いになる前に、必ずお読みください。

基本編

「基本編」では、基本的な音色選択をはじめ、ペダル効果や、演奏を盛り上げるさまざまな効果について説明します。

活用編

「活用編」では、自分の演奏を録音できるレコーダーなどの発展的な機能や、他の機器との接続方法、そしてMIDI機能について説明します。

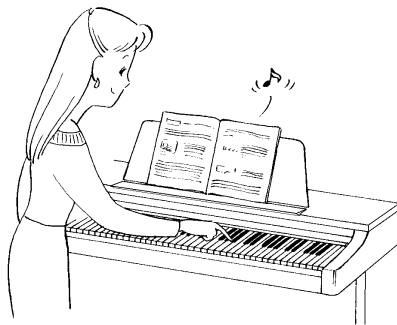
資料編

「資料」では、クラビノーバの組み立てかたなど、お使いになる上で役に立つ資料をまとめてあります。

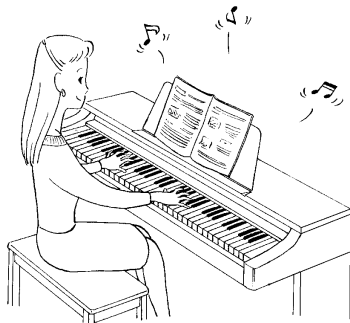
目次



正しくお使いいただくために	2
付属品	2
特長	3
目的のページの見つけかた	3
表記上のきまり	3
ご使用前の準備	4
各部の名称とはたらき	
CLP-152/153	6
CLP-154	8



さあ！弾いてみましょう	10
デモ演奏を聴いてみましょう	13
ペダル効果	15
リバーブ効果(CLP-154のみ)	17
デュアル機能	19
メトロノーム機能	22



録音(CLP-152/153)	24
再生(CLP-152/153)	26
録音(CLP-154)	27
再生(CLP-154)	30
タッチセンシティビティ調節機能(CLP-154のみ)	31
トランスポーズ(移調)機能	32
ピッチコントロール機能	33
他の機器と接続する	35
すべての設定を工場出荷状態に戻す(CLP-154のみ)	35
MIDIとは	36
MIDI機能の設定	37
MIDIデータフォーマット	40
MIDIインプリメンテーションチャート	42



クラビノーバの組み立てかた	
CLP-152	43
CLP-153/154	45
仕様	47
オプション(別売品)のご紹介	48
サービスと保証	49

はじめに

基本編

活用編

資料編

正しくお使いいただくために



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に熱い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所



お取り扱い

次のようなご使用は、故障や外装を傷める原因となりますので、ご注意ください。

- ・物をぶつけたり上に乗るなど、乱暴に扱う。
- ・汚れた手や濡れた手で触る。
- ・ボタンやスイッチ類に無理な力を加える。



クラビノーバの上に物を置く場合のご注意

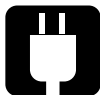
次のような物をクラビノーバの上に置きますと、水がこぼれて故障の原因になったり、外装を傷める原因となりますので、ご注意ください。

- ・水の入った花瓶や鉢
- ・塩化ビニール加工された表紙の本、ビニール製品、プラスチック製品



外装と鍵盤のお手入れ

- ・お手入れは、フェルト布などの柔らかい乾いた布で乾拭きするか、汚れのひどいときは少し水で湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナーなどの溶剤は、絶対に使用しないでください。
- ・市販の化学雑巾や外装手入れ剤のご使用は避けてください。



電源

- ・このクラビノーバは日本国内仕様です。電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ・ご使用にならないときは、電源スイッチを切ってください。
- ・落雷の危険があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をするとう質が劣化したり、故障の原因となりますので、ご注意ください。
- ・濡れた手で電源プラグに触れると、感電するおそれがありますので、ご注意ください。
- ・電源コードをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると、断線やショートの原因となります。



接続

- ・クラビノーバを外部機器と接続するときや、接続コードをはずすときは、スピーカーやアンプの損傷を防ぐため、あらかじめ両機器の電源を切ってください。
- ・電源を入れるときや切るときは、あらかじめ両機器のボリュームを最小にしてください。



他の電気機器への影響

ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生することがあります。十分に離してご使用ください。



保証書

お買い求めいただきました際に、お買い上げ店で必ず保証書の手続きをお取りください。保証書にご購入日や販売店印がない場合、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、ご注意ください。

その他

- ・クラビノーバの内部を開けたり改造することは、事故や故障の原因となりますので、絶対にしないでください。改造後の保証はいたしかねます。
- ・誤って水やその他の液体をクラビノーバにこぼしたり、クラビノーバから異臭や煙が出たときは、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店または巻末のサービス拠点にお問い合わせください。

クラビノーバは調律の必要がありません。



音楽を楽しむエチケット

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時間や場所によっては気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。隣近所への配慮を十分に、快適な生活環境を守りましょう。

付属品 (お確かめください)

椅子・BC-8
取扱説明書(本書)

保証書
ご愛用者カード

特長

AWM音源により、リアルで高品位な表現が可能です。

最大28音(CLP-152/153)、最大32音(CLP-154)の同時発音により幅広い演奏表現が可能です。

ピアノのアクション機構解析から生まれた自然なタッチ感覚のAE鍵盤を採用しました。

デュアル機能により、2つの音色を重ねて演奏することができます。

ユニークなクラピノーバトーン音色により、新鮮な音楽表現が可能です。

内蔵リバーブにより、音の響きを豊かにすることができます(CLP-154のみ)。

ダンパーペダルを踏んだときのアコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果をも再現します(CLP-154のピアノ1、2のみ)。

メトロノームを装備しており、レッスンなどで有効にお使いいただけます。

自分の演奏を録音したり、再生させることができます。

デジタル楽器の統一規格であるMIDI端子を装備しており、演奏表現の可能性がいっそう広がります。

目的のページの見つけかた

必要な情報を手早く見つける方法はいくつかあります。




巻頭の「目次」を使う。
最も一般的な方法です。

「はじめに」の中の「各部の名称とはたらき」(6～9ページ)を参考にする。
ボタンなどの働きがわからなくなったときに、有効な方法です。
パネルのイラストから、関連ページがすぐに探し出せます。

表記上のきまり

この取扱説明書では、表記に次のような記号を使います。

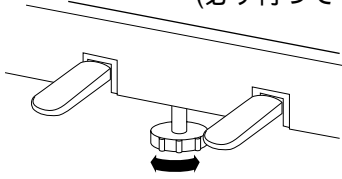
 補足 : 補足説明です。

   : 本書の手順の説明のイラストで、ランプの点灯、点滅、消灯は、それぞれこのように表します。

ご使用前の準備

アジャスターの調節

(必ず行ってください)

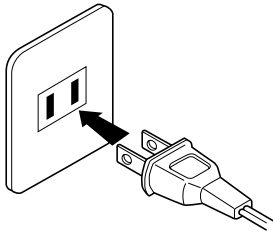


・CLP-154のペダルは3本あります。

設置場所が決まりましたら、ペダルの下のアジャスターを回して、ペダル部を床面に固定させてください。アジャスターが固定されていないと、ペダルを踏んだときにぐらつきが生じます。

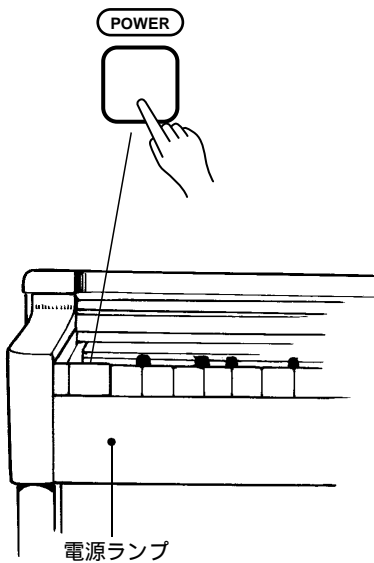
音を出す準備

1 電源コードを接続する



家庭用(AC100V)コンセントに、電源プラグを差し込みます。

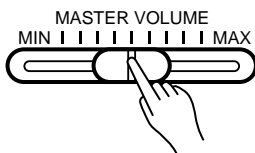
2 電源を入れる



電源(POWER)スイッチを押して電源を入れます。

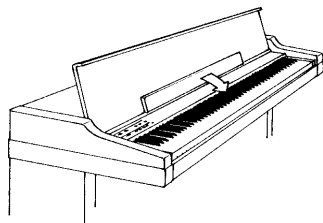
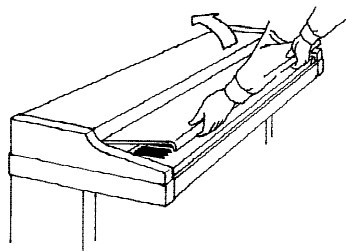
電源ランプが点灯します。

3 音量を調節する



ボリューム(MASTER VOLUME)を中程まで上げておきます。あとは、クラビノーバを実際にお使いいただきながら、調節します。

キーカバー兼譜面立ての扱いかた(CLP-152/153)



開けるとき

キーカバー兼譜面立てを、止まるまでゆっくり起こします。

譜面止めレールを、止まるまで下に開きます。

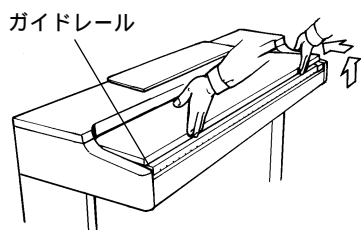
閉めるとき

譜面止めレールを、止まるまで上に閉じます。

キーカバー兼譜面立てを、止まるまでゆっくり戻します。

- ・キーカバー兼譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。
- ・キーカバー兼譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

キーカバーの扱いかた(CLP-154)



開けるとき

少しだけ持ち上げます。

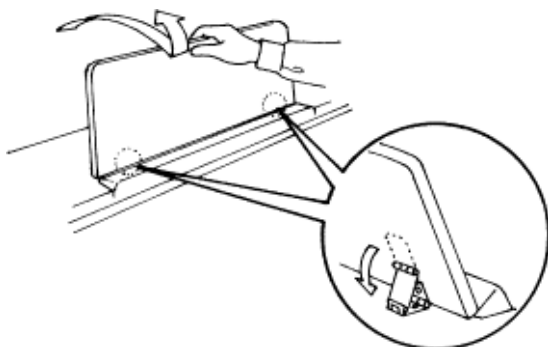
- ・持ち上げすぎないように、ご注意ください。
- ガイドレールの上をすべらせて開けます。

閉めるとき

ガイドレールに沿って下へすべらせてます。

手を添えて降ろします。

譜面立ての扱いかた(CLP-154)



立てるとき

譜面立てを、止まるまで手前に起こします。

譜面立て後ろ側の金具2つを、下向きに開きます。

金具2つが固定される位置まで、譜面立てを戻します。

倒すとき

譜面立てを、止まるまで手前に起こします。

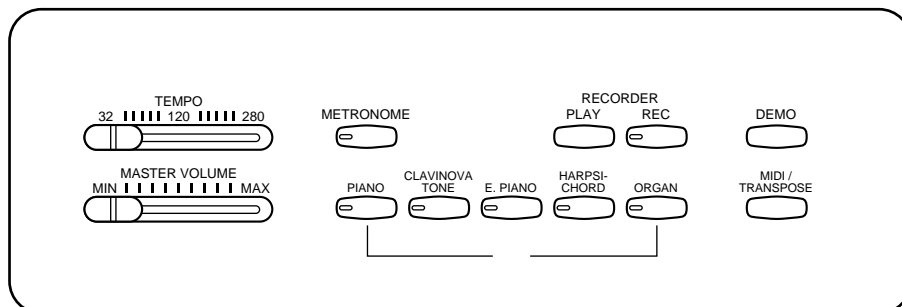
譜面立て後ろ側の金具2つを、上向きに閉じます。

譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

- ・譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。
- ・譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

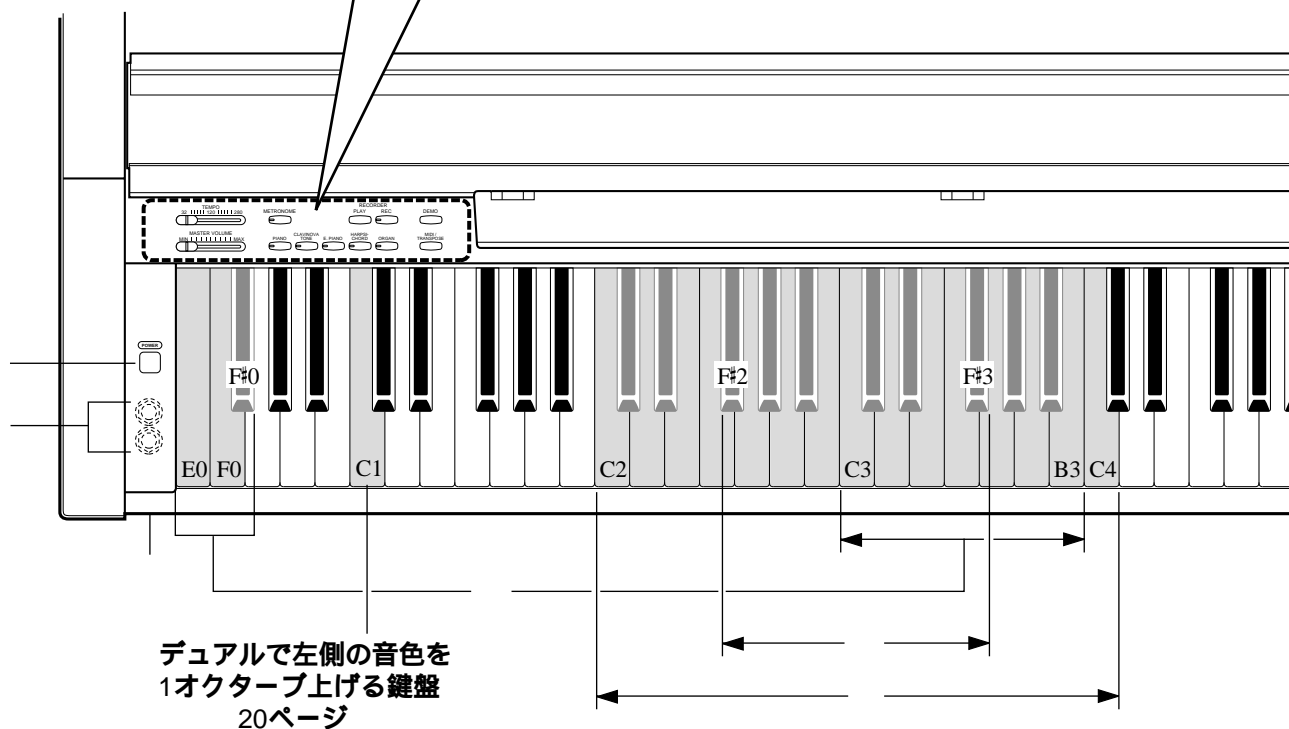
各部の名称とはたらき【CLP-152/153】

はじめに

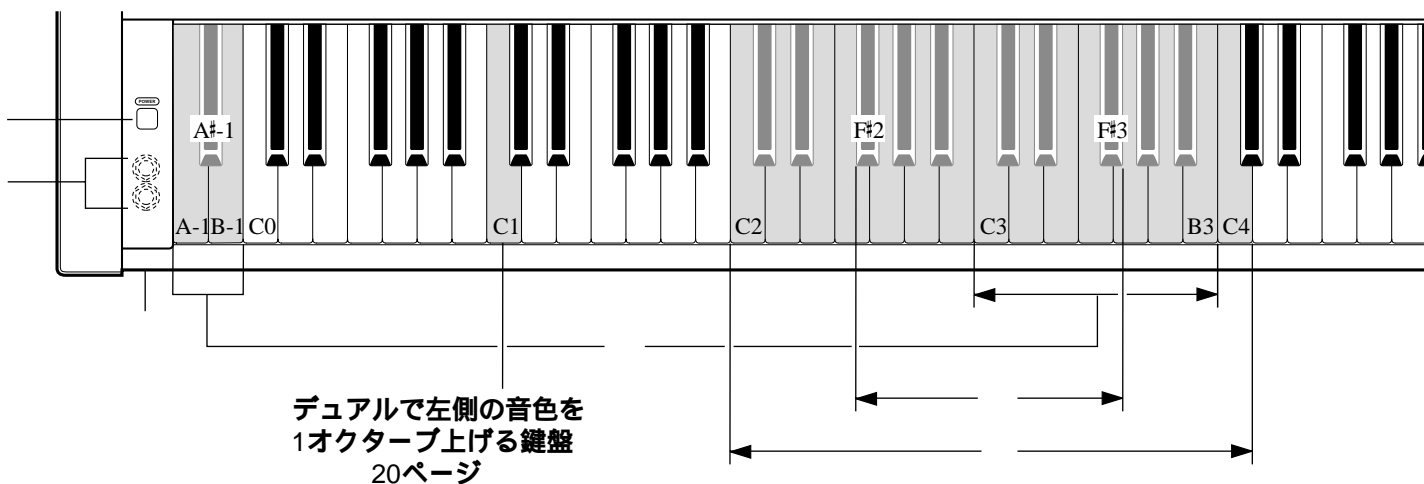


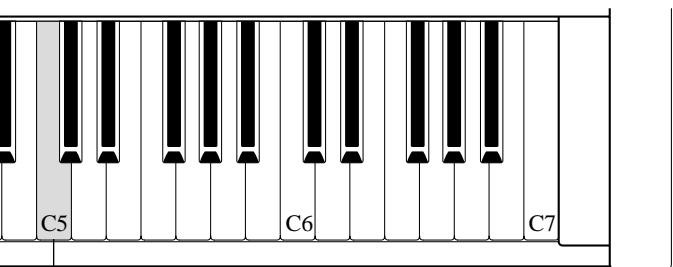
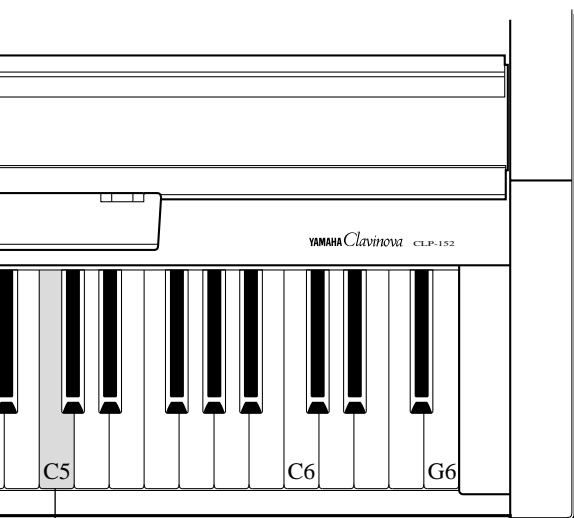
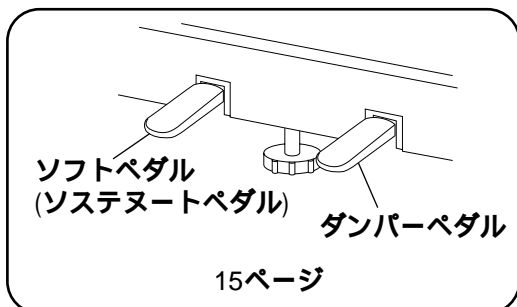
(CLP-152/153共通です)

CLP-152



CLP-153の鍵盤部





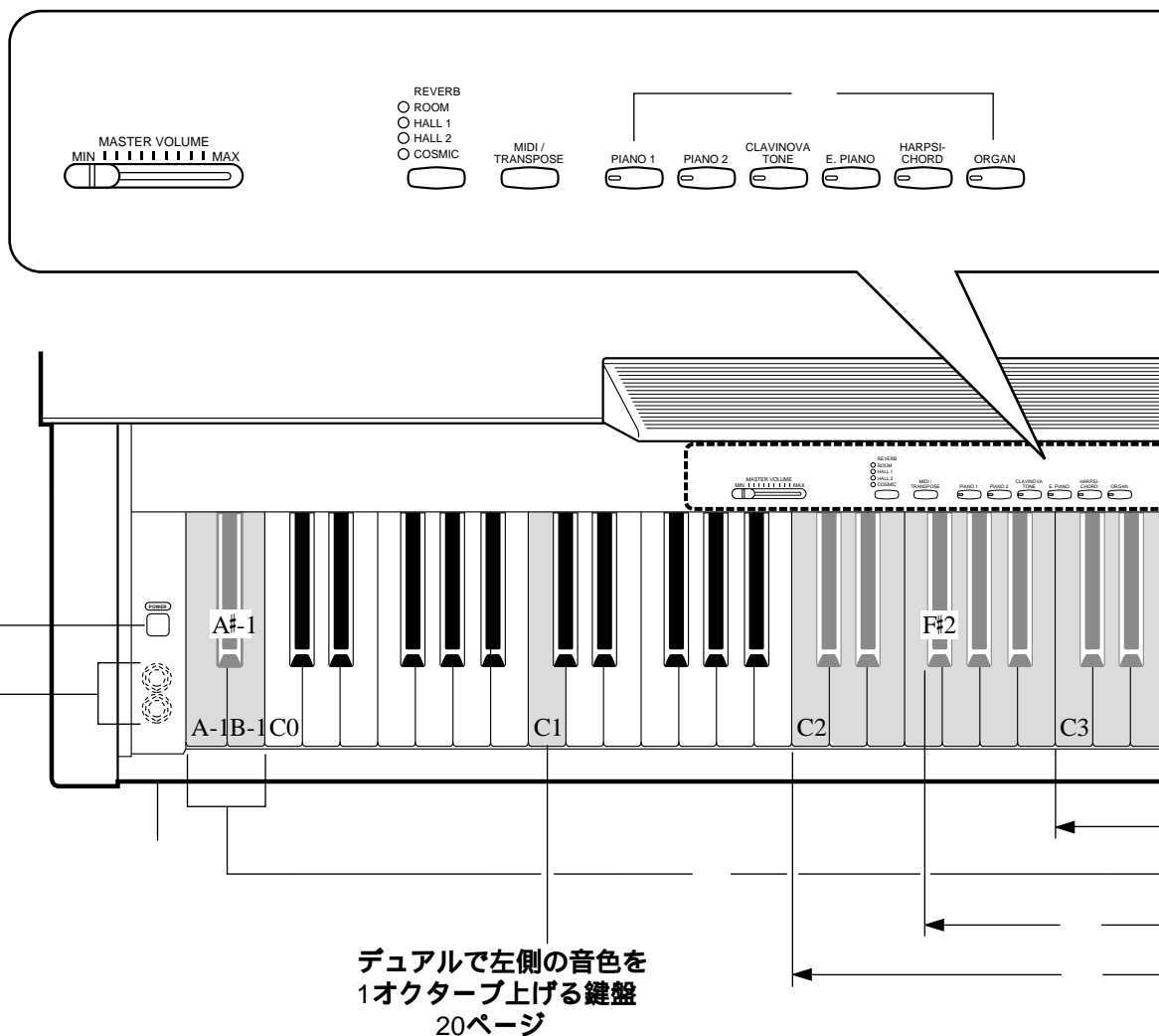
矢印()のページに詳しく説明してあります。

- 1 電源スイッチ [POWER] →4ページ
電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。
- 2 ボリューム [MASTER VOLUME] →4ページ
音量を調節するためのスライダーです。
- 3 テンポスライダー [TEMPO] →23ページ
テンポを調節するためのスライダーです。
- 4 メトロノームボタン [METRONOME] →22ページ
このボタンを押してランプを点灯させると、メトロノーム音が変わります。
- 5 音色ボタン →10ページ
演奏に使う音色を選ぶことができます。同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 19ページ)
- 6 プレイボタン [PLAY] →26ページ
再生するときに押すボタンです。
- 7 レコードボタン [REC] →24ページ
録音するときに押すボタンです。
- 8 デモボタン [DEMO] →13ページ
デモ演奏を聴くときに押すボタンです。
- 9 MIDI/トランスポーズボタン [MIDI/TRANSPOSE] →32、37~39ページ
MIDI(ミディ)機能の設定をするときや、トランスポーズ(移調)の設定をするときに使用します。
- 10 ヘッドフォン端子 [PHONES] (裏面にあります)
ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを接続すると、クラビノーバのスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子様のレッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。耳をあまり刺激しないように、適度な音量でご使用ください。
- 11 電源ランプ →4ページ
電源を入れると点灯し、切ると消灯します。
- 12 ピッチコントロール用鍵盤 →33ページ
ピッチ(音程)の設定で使用する鍵盤です。
- 13 トランスポーズ用鍵盤 →32ページ
トランスポーズ(移調)の設定で使用する鍵盤です。
- 14 バランス用鍵盤 →19ページ
デュアル機能での音量バランスを設定するときに使用する鍵盤です。

リアパネルの説明は35、36ページをご覧ください。

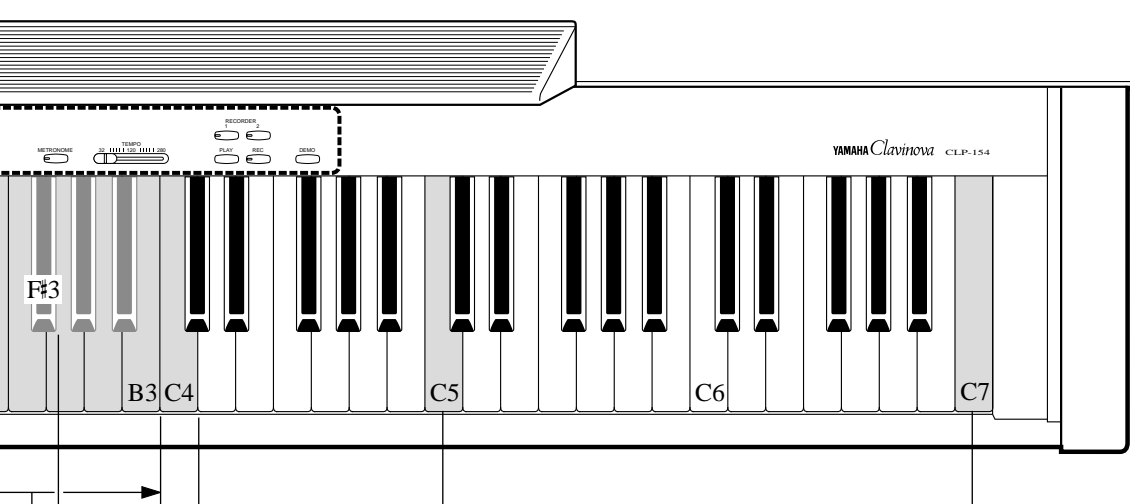
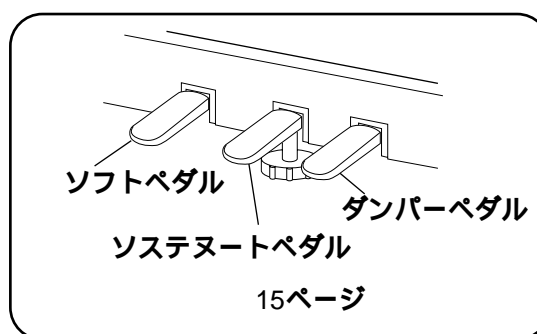
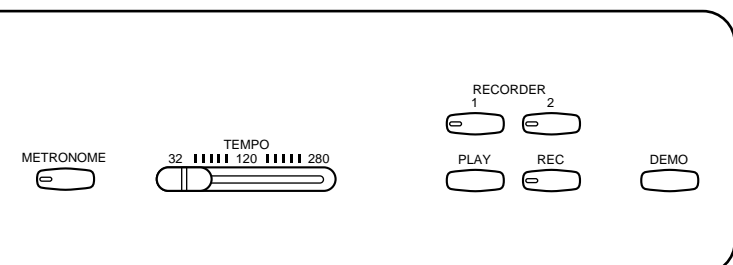
各部の名称とはたらき【CLP-154】

矢印()のページに詳しく説明してあります。



- 1 電源スイッチ [POWER] →4ページ
電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。
- 2 ボリューム [MASTER VOLUME] →4ページ
音量を調節するためのスライダーです。
- 3 リバースボタン [REVERB] →17ページ
このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音に残響が付け加わり、音の響きが豊かになります。
- 4 MIDI/トランスポーズボタン [MIDI/TRANSCOPE] →32、37~39ページ
MIDI(ミディ)機能の設定をするときや、トランスポーズ(移調)の設定をするときに使用します。

- 5 音色ボタン →10ページ
演奏に使う音色を選ぶことができます。同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 19ページ)
- 6 メトロノームボタン [METRONOME] →22ページ
このボタンを押してランプを点灯させると、メトロノーム音が加わります。
- 7 テンポスライダー [TEMPO] →23ページ
テンポを調節するためのスライダーです。
- 8 トラックボタン [1、2] →28、30ページ
録音や再生するトラックを選択するためのボタンです。
- 9 プレイボタン [PLAY] →30ページ
再生するときに押すボタンです。



デュアルで右側の音色を
1オクターブ上げる鍵盤
20ページ

- 10 レコードボタン [REC] →27ページ
録音するときに押すボタンです。
- 11 デモボタン [DEMO] →13ページ
デモ演奏を聴くときに押すボタンです。
- 12 ヘッドフォン端子 [PHONES] (裏面にあります)
ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを接続すると、クラビノーバのスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。
2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子様のレッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。耳をあまり刺激しないように、適度な音量でご使用ください。
- 13 電源ランプ →4ページ
電源を入れると点灯し、切ると消灯します。
- 14 ピッチコントロール用鍵盤 →33ページ
ピッチ(音程)の設定で使用する鍵盤です。
- 15 トランスポーズ用鍵盤 →32ページ
トランスポーズ(移調)の設定で使用する鍵盤です。
- 16 バランス/深さ調整用鍵盤 →17、19ページ
デュアル機能での音量バランスや、リバース効果の深さを設定するときに使用する鍵盤です。
- 17 メモリー用鍵盤
→18、20、31、34、35ページ
いろいろな設定を記憶させるときに使用する鍵盤です。

リアパネルの説明は35、36ページをご覧ください。

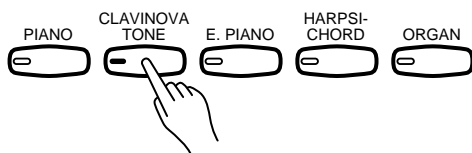
さあ！弾いてみましょう

1 音色の指定

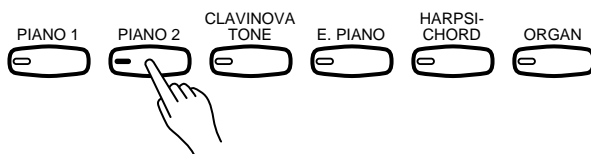
演奏したい音色のボタンを押します。
ランプが点灯します。

CLP-152/153

・下記の音色一覧表を参考にしてください。

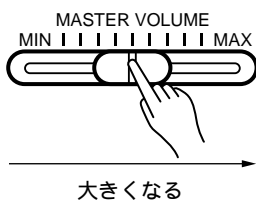


CLP-154



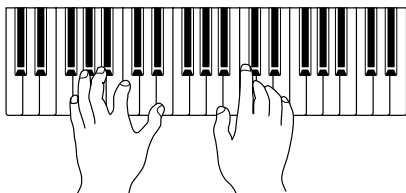
2 音量調節

ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。



3 演奏


いろいろな音色に切り換えて、弾いてみましょう。



・次ページ以降に、音色のイメージにあった楽譜を用意しています。これらの楽譜を指定された音色で弾いてみましょう。

音色一覧表

音色	CLP-152/153	CLP-154	音のイメージ
ピアノ (PIANO)			いずれもグランドピアノの音色です。 ピアノおよびピアノ1はダイナミックで豊かな響き、ピアノ2は明るめの音です
ピアノ1 (PIANO 1)			
ピアノ2 (PIANO 2)			
クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE)			ストリングス風の温かい音色とハーブ風の固めの音をミックスした新しいイメージの音です。 ドビュッシーなど、夢のある曲にお勧めです。
エレクトリックピアノ (E.PIANO)			固めのクリアなエレクトリックピアノの音色です。
ハープシコード (HARPSICHORD)			バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形ともいわれる鍵盤楽器ハープシコードの音色です。チェンバロともいいます。
オルガン (ORGAN)			パイプオルガンの音色です。

-  **補足** ・ ピアノの音色は、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。そのため、音域によっては倍音が強調されて聴こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合があります。
- ・ クラビノーバにはさまざまな効果や機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

次の楽譜を参考にして、それぞれの音色で演奏してみてください。

CLP-152/153 : ピアノ (PIANO)

CLP-154 : ピアノ1、2 (PIANO 1), (PIANO 2)

トルコ行進曲

作曲:L.v. Beethoven

この楽譜はPDF上では表示されません。

クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE)

恋におちて

作曲：小林明子

この楽譜はPDF上では表示されません。

エレКТリックピアノ (E.PIANO)

ムーン・リバー

作曲 : Henry Mancini

この楽譜はPDF上では表示されません。

Moon RIVER from the Paramount firm "BREAKFAST AT TIFFANY'S" Word by Johnny Mercer Music by Henry Mancini c 1961 by FAMOUS MUSIC CORP.
All rights reserved. Used by permission. Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9460023-401号

ハーブシコード (HARPSICHORD)

主よ人の望みの喜びよ

作曲 : J.S. Bach

この楽譜はPDF上では表示されません。

オルガン (ORGAN)

もろびとこぞりて

作曲 : G.F. Händel

この楽譜はPDF上では表示されません。

デモ演奏を聴いてみましょう

クラビノーバには、デモ演奏が各音色について1曲ずつ内蔵されており、いつでも自由に聴くことができます。

CLP-152/153 : 5曲

CLP-154 : 6曲

1 デモ演奏の選曲状態に入る



デモ(DEMO)ボタンを押します。

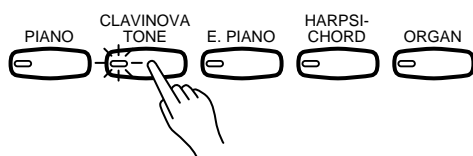
音色ボタンのランプが順に点滅し、デモ演奏の選曲待ち状態になります。

2 曲をスタートさせる

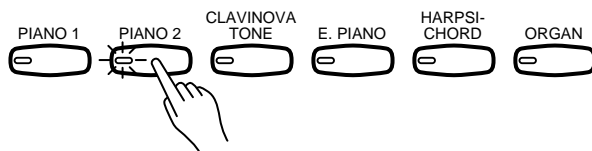
デモ演奏を聴きたい音色ボタンを押します。

☺ 押したボタンのランプが点滅し、その音色に応じたデモ演奏がスタートします。その後、ストップさせるまで音色ボタンの順番に連続演奏されます。

CLP-152/153

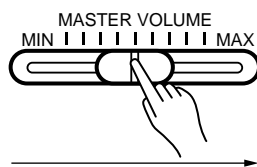


CLP-154



- ・デモ演奏中、別の音色ボタンを押すと、そのデモ曲に切り換わります。
- ・デモ演奏中の音色ボタンをもう一度押すと、デモ演奏はストップして再び選曲待ちの状態に戻ります。

3 音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。


大きくなる

4 デモ演奏状態から抜ける



デモボタンを押します。

デモ演奏状態から抜け、通常の状態に戻ります。

 補足 ・ デモ演奏のテンポは変更できません。


デモ曲一覧表

CLP-152/153

音色	曲名	作曲者
ピアノ (PIANO)	ピアノソナタK.V.331第3楽章「トルコ行進曲」	モーツァルト
クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE)	「なき王女のためのパヴァーヌ」	ラベル
エレクトリックピアノ (E.PIANO)	オリジナル	
ハープシコード (HARPSICHORD)	「調子のよい鍛冶屋」	ヘンデル
オルガン (ORGAN)	「結婚行進曲」	メンデルスゾーン

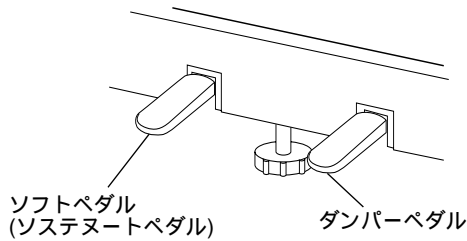
CLP-154

音色	曲名	作曲者
ピアノ1 (PIANO 1)	練習曲変ト長調op.10-5「黒鍵」	ショパン
ピアノ2 (PIANO 2)	「ル・ローヌ」	服部克久
クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE)	「なき王女のためのパヴァーヌ」	ラベル
エレクトリックピアノ (E.PIANO)	オリジナル	
ハープシコード (HARPSICHORD)	「かっこう」	ダカン
オルガン (ORGAN)	「主よ人の望みの喜びよ」	バッハ

 補足 ・ デモ演奏は、1曲すべてでなく部分的に抜粋しているものもあります。

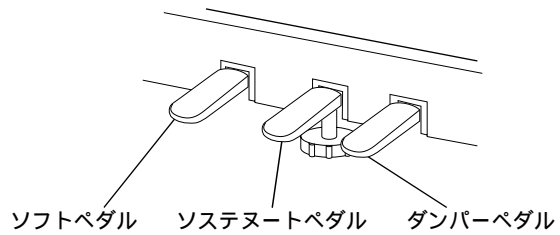
ペダル効果

CLP-152/153



CLP-152/153のスタンド部分には2つのペダルがついています。左側のソフトペダルは切り換えて、ソステヌートペダルにすることもできます。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。

CLP-154



CLP-154のスタンド部分には、ピアノと同じようにダンパー、ソステヌート、ソフトというペダルがついています。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。

1

ダンパーペダル

アコースティックピアノを演奏する際に最もよく使うペダルです。ペダルを踏むと、すべての音に余韻がかかります。

- ・ CLP-154の場合は、ピアノ1、2の音色でリバーブの設定がオフのとき、アコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果がかかります。

音色をピアノまたはピアノ1にして、次の楽譜のDの印でダンパーペダルを踏み、効果を確認してください。

オーラ・リー

アメリカ民謡

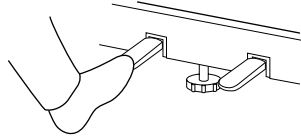
この楽譜はPDF上では表示されません。

2

ソフト/サステヌートの選択(CLP-152/153のみ)



+



MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソフトペダルを踏むと、サステヌートペダルになります。もう一度同じ操作をすると、ソフトペダルに戻ります。

3

ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。

音色をピアノまたはピアノ1にして、sのマークからソフトペダルを踏み、効果を確認してください。

音の響きを柔らかくしたいところで使うと効果的です。


4

サステヌートペダル

ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけに余韻が付きます(サステヌート効果)。ペダルを踏んだ後に弾いた音には、余韻は付きません。

低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディを弾くときなどに使用します。

音色をピアノまたはピアノ1にして、初めの「ド」を弾いた直後にサステヌートペダルを踏み(サステヌートペダルを踏むまで「ド」の音は離さない)、効果を確認してください。初めの「ド」の音だけがのびたのがわかりますね。サステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などに使われています。

 補足 ・ CLP-152/153の場合、ソフト/サステヌートの選択は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時にはソフトペダルに戻ります。

リバーブ効果(CLP-154のみ)

リバーブは、音に残響を付け加えて、音の響きを豊かにする効果です。

1

リバーブのタイプの設定

- REVERB
○ ROOM
● HALL 1
○ HALL 2
○ COSMIC



リバーブ(REVERB)ボタンを何度か押して、希望するリバーブのランプを点灯させてください。
ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- オフ(ランプ消灯) …… リバーブはかかりません。
ルーム(ROOM) …… 響きやすい部屋の中で弾いたときのような音になります。
ホール1 (HALL 1) …… 小さなコンサートホールで弾いたときのような音になります。
ホール2 (HALL 2) …… 大きなコンサートホールで弾いたときのような音になります。
コズミック(COSMIC) …… こだまのような響きが増った音になります。

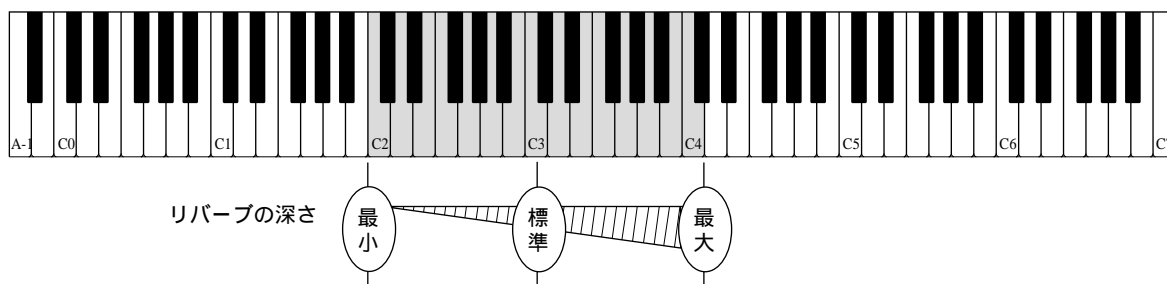
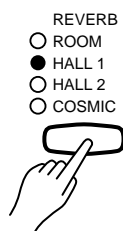
・リバーブのタイプは全音色に共通の設定です。

2

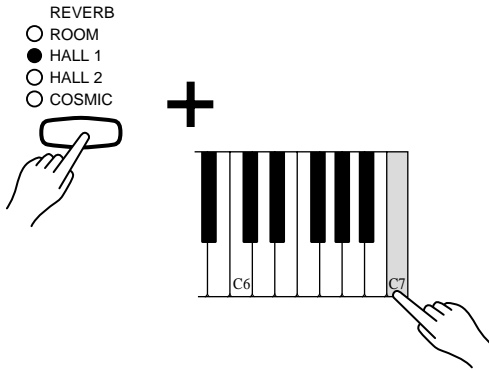
リバーブの深さ調整

リバーブボタンを押しながら、C2~C4の鍵盤を押すことで、各音色についてリバーブのタイプごとに(次ページの表を参照)、リバーブの深さ(かかり具合)を調整することができます。
C2で最小、C4で最大となります。

- ・設定したリバーブの深さは、電源をオフにするまで記憶されます。
- ・たとえば、オルガンを非常によく響く小さなコンサートホールで弾いたときのような音にしたい場合は、オルガンの音色を選び、リバーブをホール1に設定し、改めてリバーブボタンを押しながら、C4 (最大値の鍵盤)を押します。



3 設定を記憶させる場合



電源をオフにした後も設定を記憶させておきたい場合は、リバーブボタンを押しながら、C7 (右端)の鍵盤を押します。

- ・1回の操作で、今選んでいるリバーブのタイプと、各音色についてリバーブのタイプごとに設定した深さのすべて(下表を参照)が記憶されます。

4 効果を確認しよう

それでは、リバーブを切り換えながら次の楽譜を演奏して、効果を実際に確かめてみましょう。

ロンドン橋

イギリス民謡

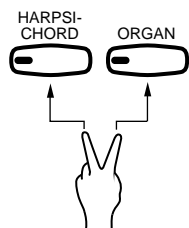
- 補足** ・設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。
- ・リバーブのタイプは全音色に共通の設定です。工場出荷時には、ルームとなっています。
 - ・リバーブの深さは、音色およびリバーブのタイプごとに設定できます。工場出荷時には、下表の鍵盤を押して設定した深さになっています。

音色 \ タイプ	ルーム	ホール1	ホール2	コズミック
ピアノ1	C3	C3	C3	C3
ピアノ2	C3	C3	C3	C3
クラピノーバトーン	C3	C3	C3	C3
エレクトリックピアノ	C3	C3	C3	C3
ハーブシコード	C3	C3	C3	C3
オルガン	C3	C3	F3	E3

デュアル機能

2つの音色を選んで、重ねて演奏することができます。

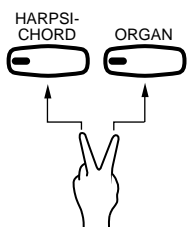
1 デュアル状態に入る



組み合わせたい2つの音色ボタンを同時に押します。
ランプが点灯します。

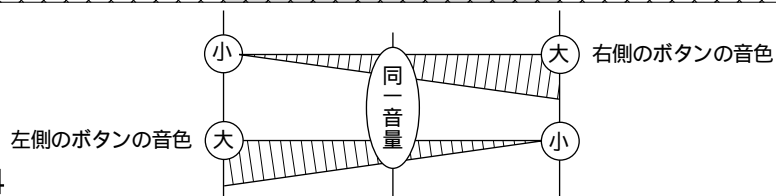
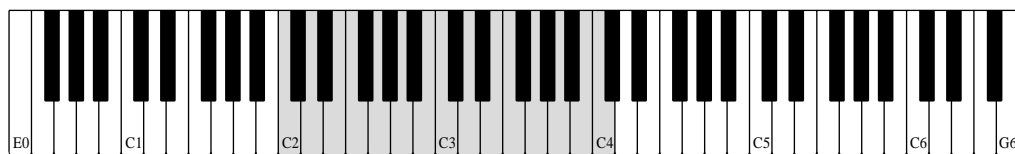
2 音量バランスの設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C2～C4の鍵盤を押すことで、2つの音色の音量バランスを設定できます。

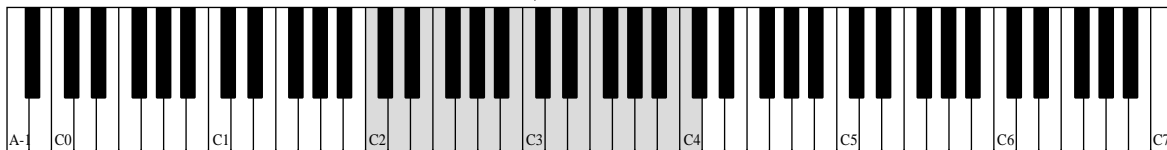


+

CLP-152



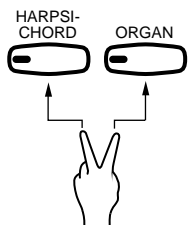
CLP-153/154



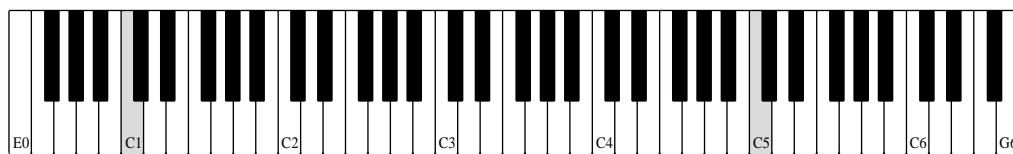
3 片方を1オクターブ上げる設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、
C5の鍵盤を押すと …… 右側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。

C1の鍵盤を押すと …… 左側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。



CLP-152

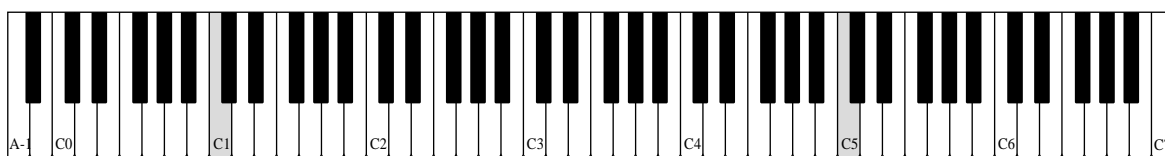


左側のボタンの音色が1オクターブ上がる



右側のボタンの音色が1オクターブ上がる

CLP-153/154



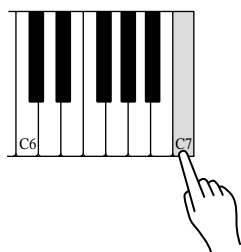
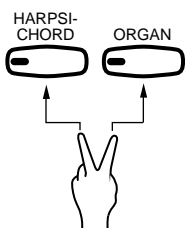
左側のボタンの音色が1オクターブ上がる



右側のボタンの音色が1オクターブ上がる

- ・ いずれの場合も、もう一度同じ操作をすると、元の音程に戻ります。
- ・ 設定した音量バランスとオクターブの切り換えは、電源をオフにするまで記憶されます。

4 設定を記憶させる場合(CL P-154のみ)



電源をオフにした後も設定を記憶させておきたい場合は、組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C7 (右端)の鍵盤を押します。

- ・ 1回の操作で、各音色の組み合わせごとに設定した内容すべて(音量バランスとオクターブの設定)が記憶されます。

5

デュアルで演奏してみよう

それでは、ピアノ(またはピアノ1)とクラビノーバトーンのデュアル状態にして、次の楽譜を演奏してみましょう。

星に願いを

作曲：Leigh Harline

この楽譜はPDF上では表示されません。

WHEN YOU WISH UPON A STAR Word by Ned Washington Music by Leigh Harline © 1940 by BOURNE CO.(Renewed 1961) International Copyright Secured. All Rights Reserved. The Rights for Japan Administered by HIGH NOTE PUBLISHING CO., LTD. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9460023-401号

補足

CLP-152/153の場合

- ・設定は電源をオフにするまで記憶されます。
- ・オクターブの切り換えは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、すべて同一オクターブになっています。
- ・音量バランスの設定は、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、下表の鍵盤を押して設定したバランスになっています。

	オルガン	ハーブシコード	エレクトリックピアノ	クラビノーバトーン
ピアノ	E2	C3	C3	C3
クラビノーバトーン	F2	C3	C3	
エレクトリックピアノ	E2	C3		
ハーブシコード	G2			

C2： 左側音色最大音量 / 右側音色最小音量
 ……
 C3： 同一音量
 ……
 C4： 左側音色最小音量 / 右側音色最大音量

CLP-154の場合

- ・設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。
- ・オクターブの切り換えは、音色の組み合わせごとに設定できます。工場出荷時には、すべて同一オクターブになっています。
- ・音量バランスの設定は、音色の組み合わせごとに設定できます。工場出荷時には、下表の鍵盤を押して設定したバランスになっています。

	オルガン	ハーブシコード	エレクトリックピアノ	クラビノーバトーン	ピアノ2
ピアノ1	F2	C3	C3	C3	C3
ピアノ2	F2	C3	C3	C3	
クラビノーバトーン	F2	C3	C3		
エレクトリックピアノ	F2	C3			
ハーブシコード	G2				

C2： 左側音色最大音量 / 右側音色最小音量
 ……
 C3： 同一音量
 ……
 C4： 左側音色最小音量 / 右側音色最大音量

メトロノーム機能

正確なテンポで演奏したいときは、クラビノーバのメトロノームをお使いください。

1 メトロノームをスタートさせる



メトロノーム(METRONOME)ボタンを押します。

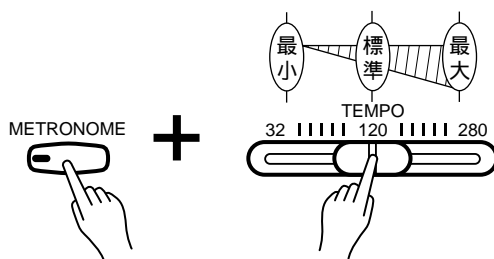
メトロノームボタンのランプが点灯し、メトロノームがスタートします。

- ・録音した曲の再生中に押すと、再生のタイミングに合わせて、メトロノームが鳴ります。

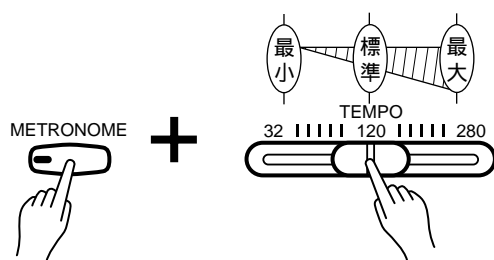
2 メトロノームの音量調節

メトロノームボタンを押しながら、テンポ(TEMPO)スライダーを動かすことで、メトロノームの音量を調節できます。

CLP-152/153



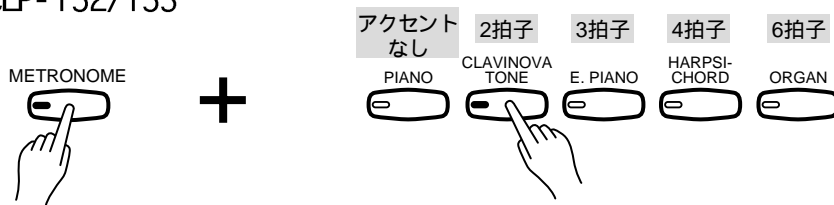
CLP-154



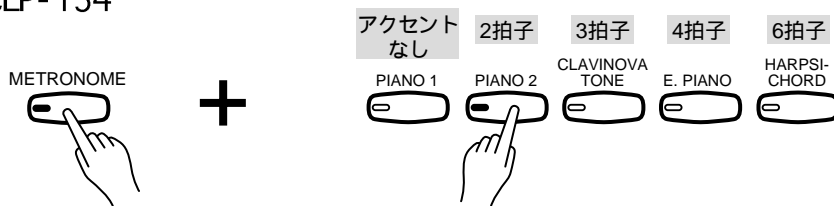
3 拍子の設定

メトロノームボタンを押しながら、音色ボタンを押すことで、メトロノームの拍子を設定できます。音色ボタンには、次のように拍子が割り当てられています。

CLP-152/153

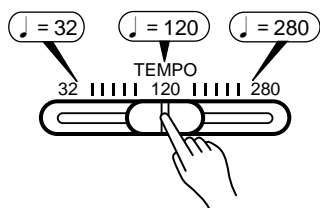


CLP-154



4

テンポの調節



テンポスライダーを動かすことで、メトロノームの速さ(1分間の拍数)を♩ = 32 ~ 280の範囲で調節できます。

5

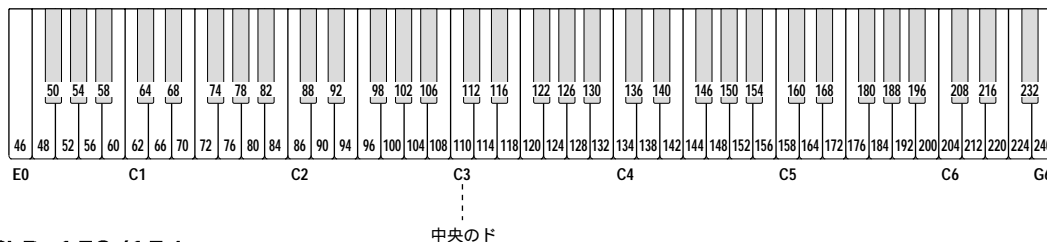
メトロノームを止める



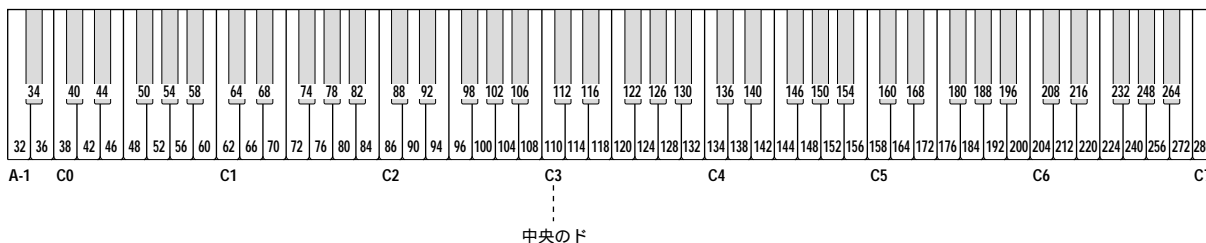
メトロノームボタンを押します。
メトロノームボタンのランプが消灯して、メトロノームが止まります。

- 🎵 **補足** ・ 録音した曲を再生させながらメトロノームを鳴らしているとき、レコーダーのプレイ(PLAY)ボタンを押して再生をストップさせると、メトロノームも止まります。
- ・ 電源オン時には、メトロノームの音量は標準、拍子は「アクセントなし」になっています。
- ・ メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポ(♩=)を下記のように正確に設定することができます。

CLP-152



CLP-153/154



鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ
A-1	(32)	A0	56	A1	80	A2	104	A3	128	A4	152	A5	192	A6	(256)
A#-1	(34)	A#0	58	A#1	82	A#2	106	A#3	130	A#4	154	A#5	196	A#6	(264)
B-1	(36)	B0	60	B1	84	B2	108	B3	132	B4	156	B5	200	B6	(272)
C0	(38)	C1	62	C2	86	C3	110	C4	134	C5	158	C6	204	C7	(280)
C#0	(40)	C#1	64	C#2	88	C#3	112	C#4	136	C#5	160	C#6	208		
D0	(42)	D1	66	D2	90	D3	114	D4	138	D5	164	D6	212		
D#0	(44)	D#1	68	D#2	92	D#3	116	D#4	140	D#5	168	D#6	216		
E0	46	E1	70	E2	94	E3	118	E4	142	E5	172	E6	220		
F0	48	F1	72	F2	96	F3	120	F4	144	F5	176	F6	224		
F#0	50	F#1	74	F#2	98	F#3	122	F#4	146	F#5	180	F#6	232		
G0	52	G1	76	G2	100	G3	124	G4	148	G5	184	G6	240		
G#0	54	G#1	78	G#2	102	G#3	126	G#4	150	G#5	188	G#6	(248)		

()内のテンポはCLP-153/154のみ設定可能です。

録音(CLP-152/153)

CLP-152/153にはレコーダーがあり、自分の演奏を1曲録音することができます。

1

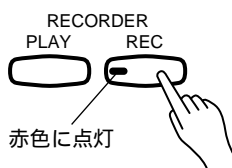
音色を選ぶ

録音したい音色のボタンを押します。

- ・録音中に音色を切り換えると、その操作も記録され、再生時に同じタイミングで音色が切り換わります。

2

録音待機状態にする



レコード(REC)ボタンを押します。

レコードボタンのランプが赤色に点灯し、録音待機状態になります。

- ・録音を中止するときは、もう一度レコードボタンを押します。

3

メトロノームを鳴らす場合

メトロノームボタンを押します。

- ・メトロノームのテンポや音量を調節したり、拍子を設定することができます(22ページ参照)。
- ・メトロノームの音は録音されません。

4

録音を始める

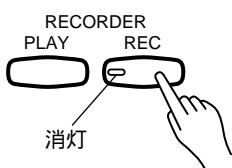
演奏を始めます。

鍵盤を押した時点から録音が始まります。

- ・曲のはじめに何拍かの無演奏部分が必要なときは、プレイ(PLAY)ボタンを押します。録音が始まりますので、必要な拍数だけ待ってから演奏を始めます。


5

録音を終わる



レコードボタンまたはプレイボタンを押します。

レコードボタンのランプは消灯し、再生待機状態になります。

-  **補足** ・録音は音符やペダル操作だけでなく、デュアル音色の組み合わせなど次ページの表の内容が記録されます。演奏を始めるまで(手順3以前)に操作した音色選択などの情報は、その曲の初期値として記録されます。初期値は、あとで変更できます(次ページ参照)。
- ・最大約1,300音符記録できますが、機能をたくさん使うと減ります。また、録音の途中でも記憶残容量がなくなると、レコードボタンのランプが点滅し、録音が終了します(終了した時点までの演奏は記録されます)。
- ・録音した曲は、電源をオフにするまで記憶されます。電源をオフにすると消えてしまいますが、CLP-152/153にディスクオーケストラユニットDOU-10などを接続して演奏データを送信すると、曲を保存することができます(39ページ参照)。

記録内容について

データ	初期値	録音中	録音後の初期値変更	操作
押鍵情報	×		×	押鍵
音色				音色ボタン
デュアル音色				音色ボタン + 音色ボタン
デュアルバランス				音色ボタン + 音色ボタン + 鍵盤C2 ~ C4
ダンパーペダル				ダンパーペダル
ソフトペダル				ソフトペダル
ソステヌートペダル	×		×	ソステヌートペダル(ソフトペダルから切り換え時)
テンポ		×		テンポスライダー

初期値の変更

録音が終わったあとで、録音した曲の初期値を変更することができます。変更できる内容は、上表をご覧ください。

レコードボタンを押します。

レコードボタンのランプが赤色に点灯して、録音待機状態になります。

パネルを操作して初期値を変更します。

レコードボタンを押します。

- ・ 誤ってプレイボタンや鍵盤を押さないでください。プレイボタンや鍵盤を押すと録音が始まってしまう、録音済みの曲が消えてしまいます。

レコードボタンのランプが消灯します。

- ・ たとえば、録音したピアノの音色をエレクトリックピアノに変更したいときは、レコードボタンを押して録音待機状態にし、次にエレクトリックピアノの音色ボタンを押し、再びレコードボタンを押します。これで音色がエレクトリックピアノに変更されます。

録音した曲の削除

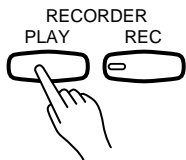
レコードボタンを押して録音待機状態にします。

プレイボタンを2回押します(プレイボタンを押して録音を開始し、何もしないでもう一度プレイボタンを押して録音を終了させます)。

再生(CLP-152/153)

録音した曲を再生させてみましょう。

1 再生を始める



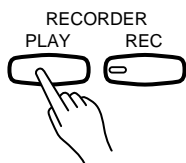
プレイ(PLAY)ボタンを押します。
再生が始まります。

- ・再生音に合わせて、演奏することができます。

2 音量を調節する

ボリュームで音量を調節します。

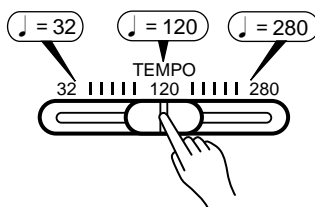
3 再生を終わる



もう一度プレイボタンを押します。

- ・曲の最後まで再生させたときは、プレイボタンを押さなくても再生が終わります。

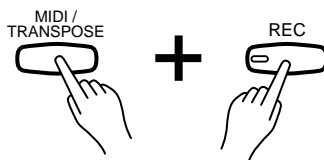
テンポを変える



再生中にテンポスライダーを動かすことで、テンポを変更することができます。

- ・メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポを正確に変更することもできます(23ページ参照)。

曲の早送り



再生中にMIDI/トランスポーズボタンを押しながらレコードボタンを押すことで、早送りができます。

早送り音が聴こえます。

- ・操作をやめたところから、通常の再生音に戻ります。

 **補足** ・再生音はMIDI OUT端子からは出力されません。

録音(CLP-154)

CLP-154のレコーダーには2つのトラック(1と2)があり、それぞれのトラックに1パートずつ録音して、1曲を仕上げることができます。たとえば、まずトラック1にピアノのパートを録音し、次にそれを聴きながら、トラック2にハーブシコードのパートを録音するというような要領です。

- ・それぞれのトラックに何のパートを入れるかは、自由に決めることができます。

トラック1に録音する はじめに、トラック1に録音してみましょう。

1

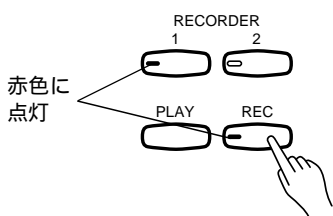
音色を選ぶ

録音したい音色のボタンを押します。

- ・録音中に音色を切り換えると、その操作も記録され、再生時に同じタイミングで音色が切り換わります。

2

録音待機状態にする



レコード(REC)ボタンを押します。

レコードボタンとトラック1ボタンのランプが赤色に点灯し、トラック1への録音待機状態になります。

- ・録音を中止するときは、もう一度レコードボタンを押します。

3

メトロノームを鳴らす場合

メトロノームボタンを押します。

- ・メトロノームのテンポや音量を調節したり、拍子を設定することができます(22ページ参照)。
- ・メトロノームの音は録音されません。

4

録音を始める

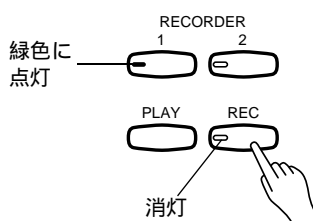
演奏を始めます。

♪ 鍵盤を押した時点から録音が始まります。

- ・曲のはじめに何拍かの無演奏部分が必要なときは、プレイ(PLAY)ボタンを押します。録音が始まりますので、必要な拍数だけ待ってから演奏を始めます。

5

録音を終わる

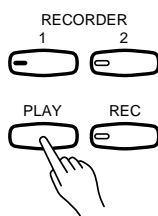


レコードボタンまたはプレイボタンを押します。

レコードボタンのランプは消灯し、トラック1ボタンのランプが緑色に点灯して、トラック1の再生待機状態になります。

6

再生する



プレイボタンを押します。

トラック1の再生が始まります。


- ・再生音に合わせて、演奏することができます。

7

再生を終わる

もう一度プレイボタンを押します。

- ・曲の最後まで再生させたときは、プレイボタンを押さなくても再生が終わります。

-  **補足** ・録音は音符やペダル操作だけでなく、デュアル音色の組み合わせ、リバーブの種類など次ページの表の内容が記録されます。演奏を始めるまで(手順3以前)に操作した音色選択、リバーブの選択などの情報は、その曲の初期値として記録されます。初期値は、あとで変更できません(次ページ参照)。
- ・トラック1、2合わせて最大約4,200音符記録できますが、機能をたくさん使うと減ります。また、録音の途中でも記憶残容量がなくなると、レコードボタンと録音しているトラックのボタンのランプが点滅し、録音が終了します(終了した時点までの演奏は記録されます)。
 - ・録音した曲は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。(ただし、次回電源を入れたときは、レコーダーにデータがあってもトラックボタンのランプは自動的に緑色に点灯しませんので、再生させる場合はトラックボタンを押して緑色に点灯させてください。)続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。また、CLP-154にディスクオーケストラユニットDOU-10などを接続して演奏データを送信すると、曲を保存することができます(39ページ参照)。
 - ・録音する際、レコードボタンを押す前にあらかじめトラックボタンを押してみても緑色に点灯するかどうか確認すると安心です。緑色に点灯する場合はそのトラックにデータがあり、録音すると前のデータは消えてしまいますのでご注意ください。

トラック2に録音する

今録音したトラック1を再生させながら、トラック2に録音してみましょう。

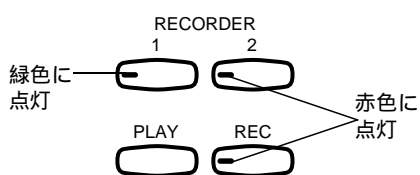
1

音色を選ぶ

トラック2に録音したい音色のボタンを押します。

2

録音待機状態にする



レコードボタンを押したあと、トラック2ボタンを押します。

レコードボタンとトラック2ボタンのランプが赤色に点灯し、トラック2への録音待機状態になります。トラック1は緑色に点灯して再生待機状態です。

3

録音を始める

演奏を始めます。

鍵盤を押した時点からトラック2への録音が始まります。トラック1の再生音を聴きながら、録音することができます。


- ・曲の途中から演奏を始めるときは、プレイボタンを押します。再生音を聴いて、必要なところから演奏を始めます。

4

録音を終わる

レコードボタンまたはプレイボタンを押します。

レコードボタンのランプが消灯し、トラック1とトラック2ボタンのランプが緑色に点灯して、再生待機状態になります。

-  **補足** ・ 押鍵情報やペダル操作などトラックごとに記録される情報と、リバーブの種類など2つのトラックに共通のデータとして記録される情報があります(下表参照)。
- ・ トラック1ですでに記憶残容量がなくなった場合、トラック2に録音できない場合もあります。

記録内容について

トラックごとに記録されるデータ

データ	初期値	録音中	録音後の初期値変更	操作
押鍵情報	×		×	押鍵
音色				音色ボタン
デュアル音色				音色ボタン + 音色ボタン
ダンパーペダル				ダンパーペダル
ソフトペダル				ソフトペダル
ソステヌートペダル	×		×	ソステヌートペダル
デュアルバランス				音色ボタン + 音色ボタン + 鍵盤C2 ~ C4

両トラック共通に記録されるデータ

データ	初期値	録音中	録音後の初期値変更	操作
リバーブの種類				リバーブボタン
リバーブの深さ				リバーブボタン + 鍵盤C2 ~ C4
テンポ		×		テンポスライダー

初期値の変更

録音が終わったあとで、トラックごと、または両トラック共通の初期値を変更することができます。変更できる内容は、上表をご覧ください。

レコードボタンを押します。

レコードボタンのランプが赤色に点灯して、録音待機状態になります。

変更するトラックを選んで、トラックボタンを押します。

押したボタンのランプが赤色に点灯して、録音待機状態になります。

パネルを操作して初期値を変更します。(たとえば、ピアノ1の音色をエレクトリックピアノに変更したいときは、ここでエレクトリックピアノの音色ボタンを押します。)

レコードボタンを押します。

- ・ 誤ってプレイボタンや鍵盤を押さないでください。プレイボタンをや鍵盤押すと録音が始まってしまう、そのトラックに録音済みのデータが消えてしまいます。

レコードボタンのランプが消灯します。

トラックデータの削除

録音したデータを、トラックごとに削除することができます。

削除したいトラックを、録音待機状態にします。

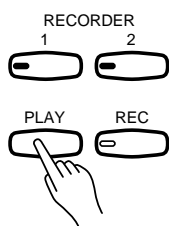
プレイボタンを2回押します(プレイボタンを押して録音を開始し、何もしないうちでもう一度プレイボタンを押して録音を終了させます)。

再生(CLP-154)

録音した曲を再生させてみましょう。

1

再生を始める



プレイ(PLAY)ボタンを押します。

再生が始まります。

- ・再生音に合わせて、演奏することができます。

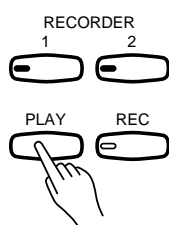
2

音量を調節する

ボリュームで音量を調節します。

3

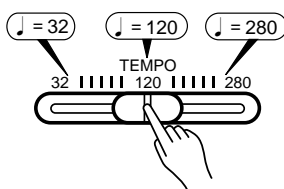
再生を終わる



もう一度プレイボタンを押します。

- ・曲の最後まで再生させたときは、プレイボタンを押さなくても再生が終わります。

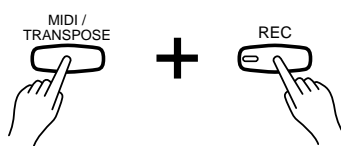
テンポを変える



再生中にテンポスライダーを動かすことで、テンポを変更することができます。

- ・メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポを正確に変更することもできます(23ページ参照)。

曲の早送り



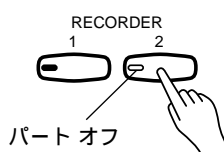
再生中にMIDI/トランスポーズボタンを押しながらレコードボタンを押すことで、早送りができます。

早送り音が聴こえます。

- ・操作をやめたところから、通常の再生音に戻ります。

片方のパートをオフにしたいとき

トラックボタンのランプが緑色に点灯する場合は、そのトラックにデータが記録されています。トラックボタンを押して緑色のランプを消灯させると、そのトラックの再生をオフにすることができます。



オフにする： オフにする方のトラック(1または2)ボタンを押します。

緑色のランプが消灯します。

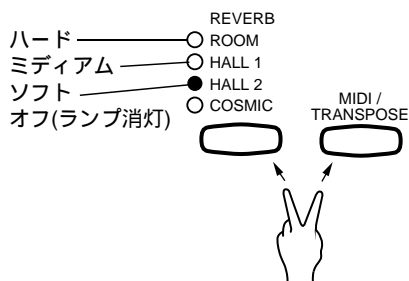
オンに戻す： オフにした方のトラックボタンを、もう一度押します。

緑色のランプが点灯します。

タッチセンシビリティ調節機能(CLP-154のみ)

弾く強さによる音の強弱の変化の度合い(感度)を、4種類の中から選ぶことができます。
(鍵盤自体の重さは変わりません。)

1 タッチ感度を選ぶ



MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、リバーブボタンを押すことで、タッチ感度を4種類の中から選ぶことができます。希望する感度に対応するランプを点灯させてください。

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

操作中は、リバーブボタンのランプが設定を表示します。

ハード(ROOM点灯) …………… ピアニッシモからフォルティッシモまでダイナミックな演奏ができるタッチです。

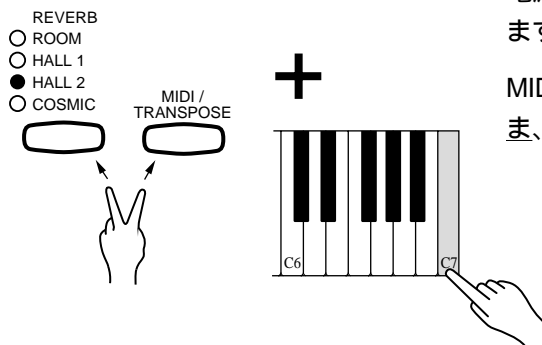
ミディアム(HALL 1点灯) …… 標準的なタッチです。

ソフト(HALL 2点灯) …………… 比較的音のつづがそろいやすいタッチです。

オフ(消灯) …………… タッチによる強弱は付きません。


- ・ タッチ感度は、全音色に共通の設定です。
- ・ 設定した感度は、電源をオフにするまで記憶されます。

2 設定を記憶させる場合



電源をオフにした後も設定を記憶させておくことができます。

MIDI/トランスポーズボタンとリバーブボタンを押ししたまま、C7(右端)の鍵盤を押します。

 **補足** ・ 音色によっては、効果の少ないものもあります。

- ・ 設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。
- ・ 工場出荷時には、タッチ感度はミディアムになっています。

トランスポーズ(移調)機能

押さえる鍵盤を変えずに、歌う人の声や他の楽器の高さに、キー(調)を合わせることができます。(つまり、弾く鍵盤の位置と発音される音の高さをずらすことができます。)

- ・ -6 ~ +6半音の範囲でずらすことができます。「ド」の音なら低い方に最大で「ファ#」(半オクターブ下)まで、高い方も最大で「ファ#」(半オクターブ上)までずらすことができます。

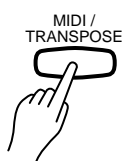
移調量の設定

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、F#2 ~ F#3の鍵盤を押すことで、移調量を設定できます。

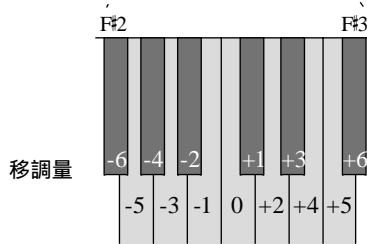
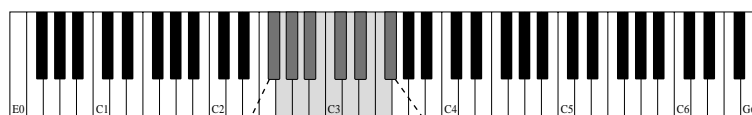
F#2の鍵盤 … -6半音に設定されます。

C3の鍵盤 …… 標準状態(0)です。

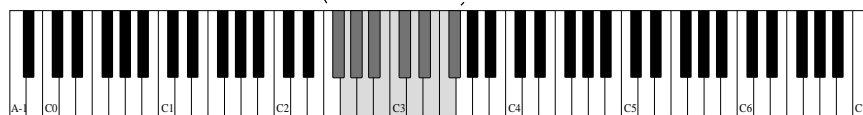
F#3の鍵盤 … +6半音に設定されます。



CLP-152



CLP-153/154



- 補足** ・ 設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態(0)に戻ります。
- ・ 移調によって、A-1より低くなった音は1オクターブ上の音で、C7より高くなった音は1オクターブ下の音で鳴ります。

ピッチコントロール機能

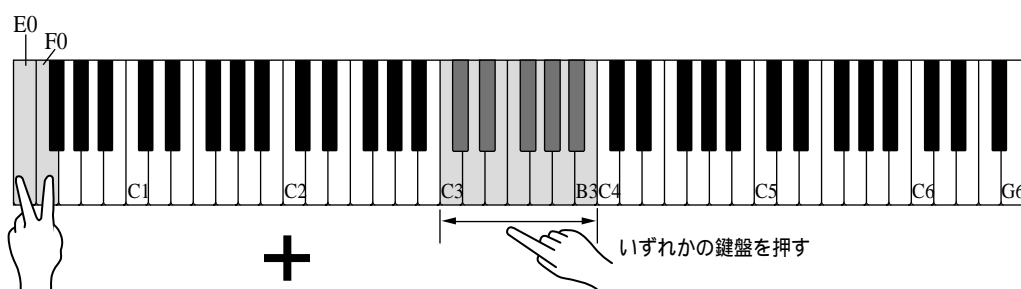
合奏のときなどに、音程(ピッチ)を正確に合わせるための機能です。他の楽器と微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って音の高さを合わせます。

- ・ 約-50セント～約+50セントの範囲で、CLP-152/153は約1.6セントきざみの設定、CLP-154は約1.2セントきざみの設定ができます(100セント=半音)。

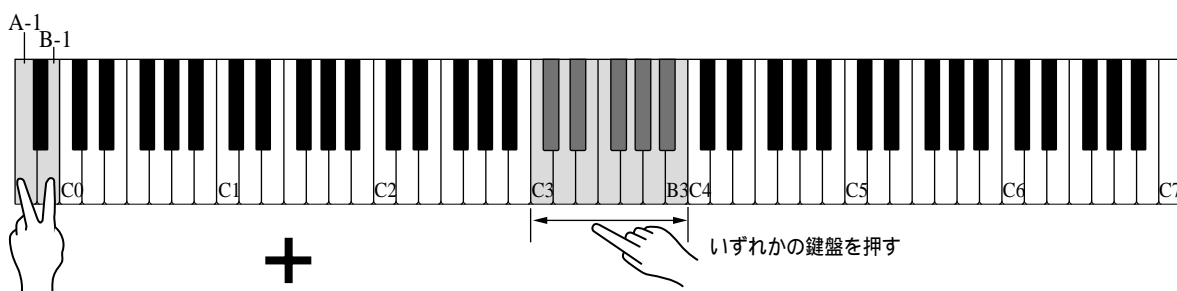
1 音程を上げる

CLP-152の場合は、E0とF0の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、CLP-153/154の場合は、A-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに1きざみずつ音程が上がります。音を聴きながらこきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。

CLP-152



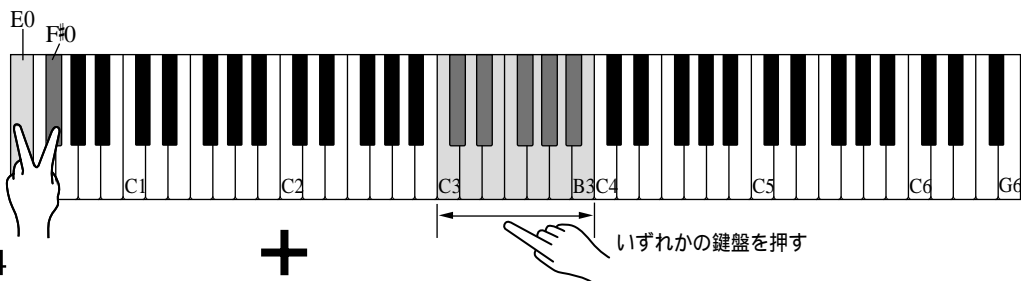
CLP-153/154



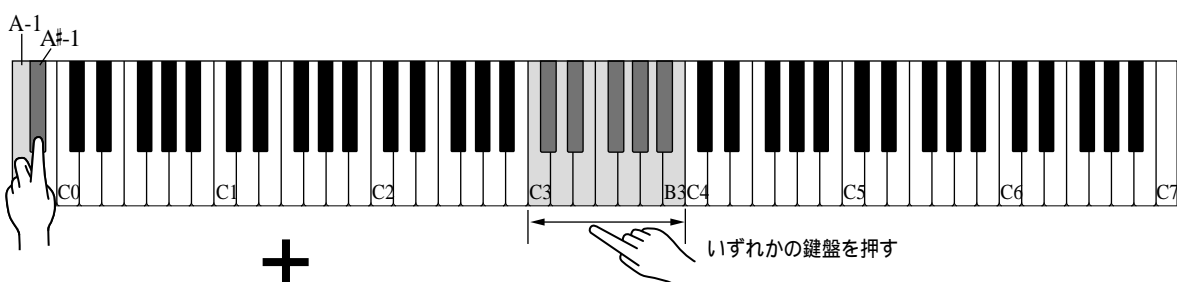
2 音程を下げる

CLP-152の場合は、E0とF#0の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、CLP-153/154の場合は、A-1とA#-1の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに1きざみずつ音程が下がります。音を聴きながらこきざみに音程を下げて、他の楽器と合わせてください。

CLP-152



CLP-153/154

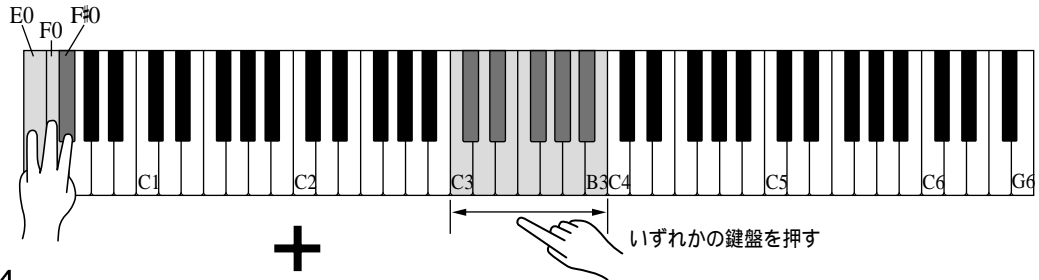


3

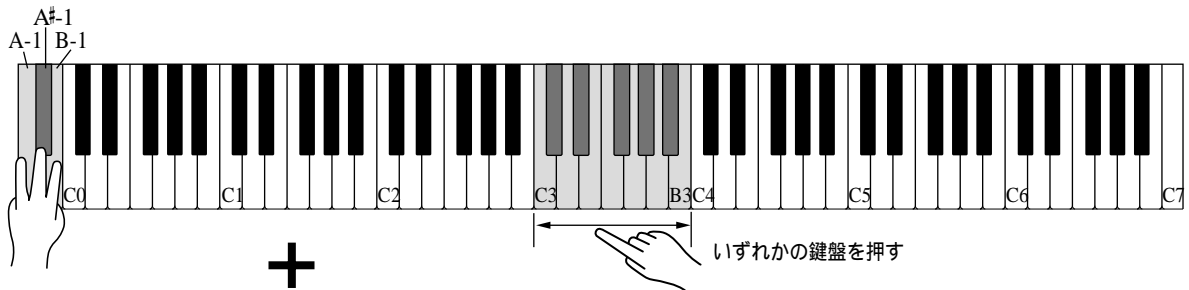
標準状態に戻すとき

CLP-152の場合は、E0とF0とF#0の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、CLP-153/154の場合は、A-1とA#-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。

CLP-152



CLP-153/154

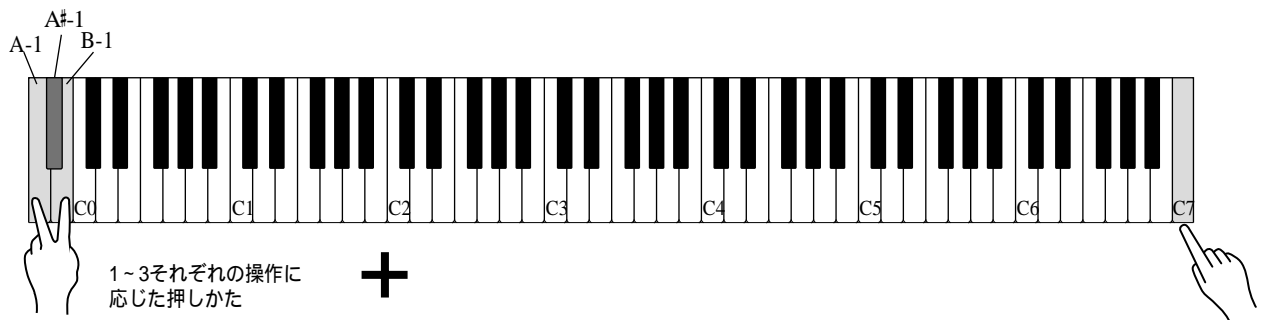


4

設定を記憶させる場合(CL P-154のみ)

設定した音程は、電源をオフにするまで記憶されます。CLP-154の場合は、電源をオフにした後も設定を記憶させておくことができます。

操作1～3の各 の鍵盤(A-1とB-1、またはA-1とA#-1、またはA-1とA#-1とB-1)を同時に押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。



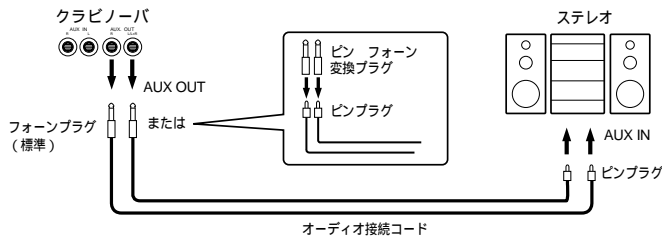
補足 ・ CLP-152/153の場合、設定は電源をオフにするまで記憶されます。

- ・ CLP-154の場合、設定を記憶させると、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。
- ・ ピッチコントロール量は全音色に共通の設定です。工場出荷時には、標準状態(A3=440Hz)になっています。
- ・ MIDIのローカルコントロールがオフ(37ページ参照)のときは、ピッチコントロールの設定はできません。

他の機器と接続する

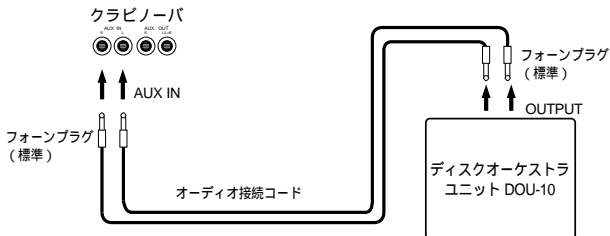
リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。なお、MIDI端子については次ページをご覧ください。

AUX出力端子を使う




オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、ステレオなどからより大きな音を出したり、演奏を録音できます。ステレオに接続したときは、クラビノーバのボリューム(MASTER VOLUME)を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量調節してください。

AUX入力端子を使う

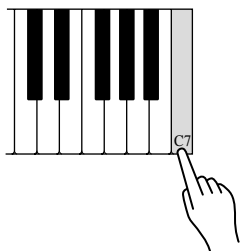


オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、DOU-10など他の楽器や機器の音をクラビノーバのスピーカーから出すことができます。

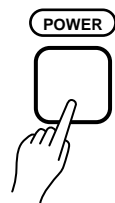
-  **補足** ・ AUX入力端子から入力した外部機器の音も、クラビノーバの音といっしょに本体スピーカーとAUX出力端子から出力されますが、クラビノーバの音量調節やリバーブなどは効きません。
- ・ AUX出力端子から出力した音を、AUX入力端子に戻さないでください。
 - ・ オーディオ接続コードおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

すべての設定を工場出荷状態に戻す(CLP-154のみ)


クラビノーバに記憶させたすべての設定を消して、工場出荷状態に戻すことができます。



+



C7(右端)の鍵盤を押しながら、電源(POWER)スイッチをオンにします。

-  **補足** ・ この操作を実行すると、クラビノーバに記憶させたすべての設定が消え、工場出荷状態に戻ります。(リバーブ効果、デュアル機能、タッチセンシティビティ調節機能、ピッチコントロール機能に関する設定、レコーダーの録音データ)

MIDIとは

MIDI(ミディ)とは、「Musical Instrument Digital Interface」の略で、世界の主な楽器メーカー間での話し合いにより決められた世界統一の規格です。

MIDIはデジタル信号なので、1本のMIDIケーブル上で演奏情報をはじめいろいろな情報を同時に扱うことができます。

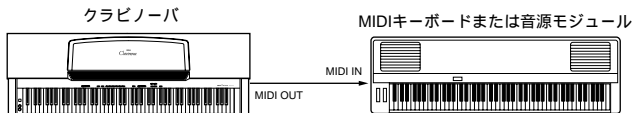
このMIDIを使うことによって、あるMIDI楽器から別のMIDI楽器を自由自在にコントロールすることができます。

MIDIを使ってできること

他のMIDIキーボードとつなぐ

図のようにクラピノーバのMIDI OUTと、他のMIDIキーボードまたは音源モジュールのMIDI INをつないで、クラピノーバを演奏すると、まったく違う音色によるユニゾンで鳴らすことができます。

当然ですが、逆に他のMIDIキーボードのMIDI OUTとクラピノーバのMIDI INをつなぐことによって、他のMIDIキーボードからクラピノーバをコントロールすることもできます。

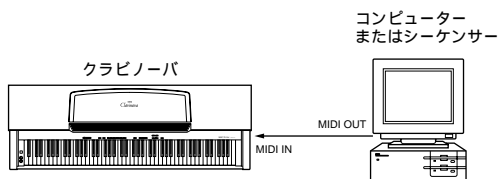


注意：他のMIDI機器と接続して鳴らす場合は、次ページの方法でMIDIチャンネルを合わせる必要があります。

コンピューターやシーケンサーの音源として使う

コンピューターやシーケンサーの自動演奏の音源として、クラピノーバを使うことができます。

38ページのマルチティンバー機能を使うことによって、内蔵されている複数の音色で同時に鳴らすことができます。



注意：コンピューターを使う場合は、シーケンスソフトとMIDIインターフェースが必要です。

MIDIシステムのセットアップ

MIDIを利用するには、専用のMIDIケーブルを使って正しくMIDI端子を接続する必要があります。

MIDI端子

通常、MIDI端子は図のように3種類あります。

●MIDI IN

MIDI信号を受ける端子です。

●MIDI OUT

MIDI信号を出力する端子です。

●MIDI THRU

MIDI INに入ってきたMIDI信号を、そのまま出力します。

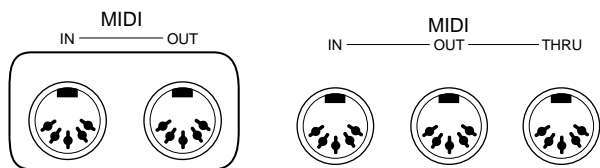
MIDI機器をたくさん接続するときに便利ですが、あまりたくさんMIDI機器のTHRU端子を通過させると、MIDI信号が遅れてしまうので注意が必要です。

MIDI機器の種類によっては、その機能によってMIDI端子が3つより少なかったり、同じ端子が複数付いている場合があります。

また下図ではクラピノーバCLP-152/153と、CLP-154のMIDI端子を示していますが、他のMIDI機器では並びの順番が違うものもあるため、注意が必要です。

CLP-152/153

CLP-154



注意：CLP-152/153にはTHRU端子はありません。

MIDIケーブル

電子楽器を扱っている楽器店で購入することができます。

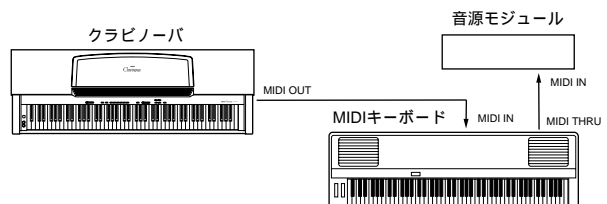
30cmから15mくらいまで、用途に応じていろいろな長さのものがあります。

MIDIの接続

MIDI端子の5本のピンの向きを確かめて、まっすぐに差し込みます。

MIDI信号を出力させる機器のMIDI OUTと、MIDI信号を受けさせる機器のMIDI INをつなぎます。

さらに増やす場合は、MIDI THRUを使います。



注意：MIDI機器は、それぞれ機種ごとに扱えるMIDIデータの内容が異なる場合があり、接続しているMIDI機器間で共通の機能だけコントロールすることができます。

注意：この共通の機能を調べるには、MIDIインプレメンテーション・チャート(42ページ参照)を使います。

MIDI機能の設定

MIDIを利用するときには、目的に応じて設定しておかなければならない項目がいくつかあります。

MIDIチャンネルを合わせる (MIDI送信/受信チャンネルの設定)

MIDIデータは一部を除いて、1～16のチャンネルを持っています。

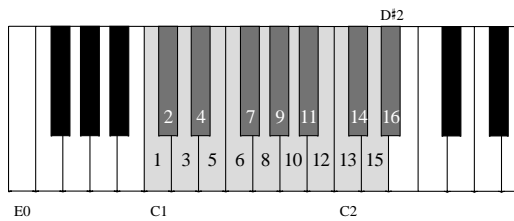
MIDIデータを扱う場合、送信側と受信側でこのMIDIチャンネルを合わせておく必要があります。

送信側からMIDIデータが送られてくると、受信側で設定されているチャンネルと一致するものだけを受け付け、異なるチャンネルのデータは無視するようになっています。また、特別にオムニ・オン (OMNI ON) という状態があります。これはMIDIチャンネルに関係なく、受信したMIDIデータをすべて受け付ける状態です。

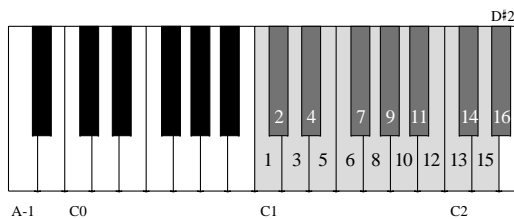
MIDI送信チャンネルの設定

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、C1～D#2の鍵盤を押すと、図のように送信チャンネルが設定されます。

CLP-152



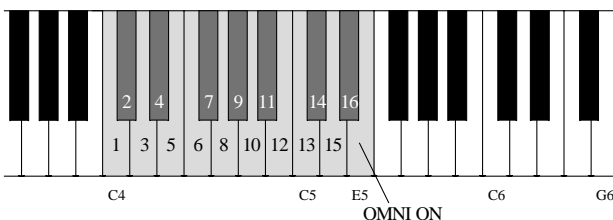
CLP-153/154



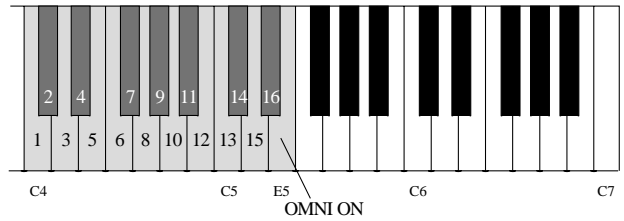
MIDI受信チャンネルの設定

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、C4～E5の鍵盤を押すと、図のように受信チャンネルが設定されます。

CLP-152



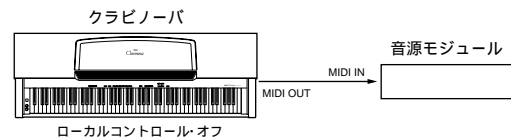
CLP-153/154



- ・電源をオンにしたときは、送信チャンネル=1、受信チャンネル=オムニ・オンに設定されます。

クラビノーバの鍵盤と音源の機能を切り離して使う(ローカルコントロール・オフ)

クラビノーバをはじめシンセサイザーなどでも、鍵盤を弾いて、内蔵されている音源で音を出すのが普通です。ところが、ローカルコントロールをオフにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもクラビノーバからは音が出なくなります。一方、演奏情報はMIDI OUT端子から出力されますので、クラビノーバ本体を鳴らさずにMIDIで他の音源をコントロールしたいときに、オフにしてください。



CLP-152/153

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ピアノ (PIANO) ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、ローカルコントロール=オフでピアノボタンのランプが点灯、ローカルコントロール=オンで消灯します。

CLP-154

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ピアノ1 (PIANO 1) ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、ローカルコントロール=オフでピアノ1ボタンのランプが点灯、ローカルコントロール=オンで消灯します。

- ・電源をオンにしたときは、ローカルコントロール=オンに設定されます。

MIDIによる音色ナンバーの変更 (プログラムチェンジ)

MIDIを使って送信側の機器から受信側の機器の音色ナンバーを切り換えることができます。これをプログラムチェンジといいます。

いろいろなMIDIシステムを組んでいくと、このプログラムチェンジのデータの送受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合とがあります。

プログラムチェンジをオフにすると、プログラムチェンジの情報を送受信しなくなります。

CLP-152/153 :

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、プログラムチェンジ = オフでクラビノーバトーンボタンのランプが点灯、プログラムチェンジ = オンで消灯します。

CLP-154 :

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ピアノ2 (PIANO 2)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、プログラムチェンジ = オフでピアノ2ボタンのランプが点灯、プログラムチェンジ = オンで消灯します。

- 電源をオンにしたときは、プログラムチェンジ = オンに設定されます。

コントロールチェンジについて

MIDIではペダルやボリュームなど、いろいろなデータの送受信も行えます。これらはコントロールチェンジとしてまとめて扱われます。

コントロールチェンジをオフにすると、コントロールチェンジの情報を送受信しなくなります。

CLP-152/153 :

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、エレクトリックピアノ (E. PIANO)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、コントロールチェンジ = オフでエレクトリックピアノボタンのランプが点灯、コントロールチェンジ = オンで消灯します。

CLP-154 :

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、コントロールチェンジ = オフでクラビノーバトーンボタンのランプが点灯、コントロールチェンジ = オンで消灯します。

- クラビノーバがコントロールチェンジとして扱える情報は、41ページに詳しくまとめてあります。

- 電源をオンにしたときは、コントロールチェンジ = オンに設定されます。

クラビノーバをシーケンサーのマルチ音源として使う (マルチティンバー機能)

クラビノーバに内蔵されている音色を、シーケンサーやコンピュータのマルチ音源として使うことができます。

シーケンサーからパートごとにプログラムチェンジで音色を指定して鳴らすことによって、オーケストレーションを楽しむことができます。

マルチティンバー機能をオンにすると、マルチ音源として使うことができるようになります。

CLP-152/153 :

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ハーブシコード (HARPSICHORD)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、マルチティンバー機能 = オンでハーブシコードボタンのランプが点灯、マルチティンバー機能 = オフで消灯します。

CLP-154 :

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、エレクトリックピアノ (E. PIANO)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、マルチティンバー機能 = オンでエレクトリックピアノボタンのランプが点灯、マルチティンバー機能 = オフで消灯します。

- 電源をオンにしたときは、マルチティンバー機能 = オフに設定されます。

低音部を外部音源で鳴らす (MIDIスプリット&レフトローカル・オフ)

鍵盤を好きな位置で低音部と高音部に分け、低音部の音をクラビノーバでは鳴らないよう(MIDIスプリット&レフトローカル・オフ)にする機能です。音源モジュールなどのMIDI機器を接続すると、低音部は外部音源で、高音部はクラビノーバの音源で鳴らすことができます。

CLP-152/153 :

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、オルガン (ORGAN)ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&レフトローカル・オフと通常の状態が切り換わります。

操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでオルガンボタンのランプが点滅、通常の状態で消灯します。MIDI/トランスポートボタンを押したまま、境にしたい鍵盤を押します。

操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでオルガンボタンのランプが点灯、通常の状態で消灯します。

CLP-154 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハーブシコード(HARPSICORD)ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&レフトローカル・オフと通常の状態が切り換わりま

す。操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでハーブシコードボタンのランプが点滅、通常の状態では消灯し

ます。MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、境にしたい鍵盤を押します。

操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでハーブシコードボタンのランプが点灯、通常の状態では消灯し

- ・ MIDIスプリット&レフトローカル・オフのときは、低音部はチャンネル2で送信、高音部は送信チャンネルで送信されます。
- ・ 電源をオンにしたときは、通常の状態に設定されます。
- ・ 境にした鍵盤は、常に低音部に含まれます。電源をオンにしたときは、境の鍵盤はF#2に設定されます。

高音部を外部音源で鳴らす(MIDIスプリット&ライトローカル・オフ) 《CLP-154のみ》

前項のMIDIスプリット&レフトローカル・オフは低音部の音がクラビノーバでは鳴らないようにする機能ですが、この機能は逆に、高音部の音がクラビノーバでは鳴らないよう(MIDIスプリット&ライトローカル・オフ)にする機能です。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、オルガン(ORGAN)ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&ライトローカル・オフと通常の状態が切り換わりま

す。操作中は、MIDIスプリット&ライトローカル・オフでオルガンボタンのランプが点滅、通常の状態では消灯し

ます。MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、境にしたい鍵盤を押します。

操作中は、MIDIスプリット&ライトローカル・オフでオルガンボタンのランプが点灯、通常の状態では消灯し

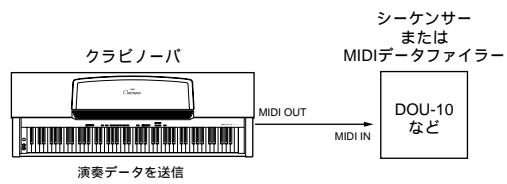
- ・ MIDIスプリット&ライトローカル・オフのときは、低音部はチャンネル2で送信、高音部は送信チャンネルで送信されます。
- ・ 電源をオンにしたときは、通常の状態に設定されます。
- ・ 境にした鍵盤は、常に低音部に含まれます。電源をオンにしたときは、境の鍵盤はF#2に設定されます。

録音した曲を外部機器に保存する(演奏データの送信)

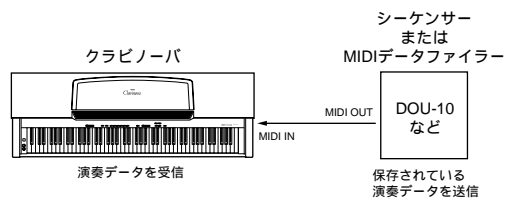
CLP-152/153/154のレコーダーに録音したデータを、MIDIデータとして送信し、ディスクオーケストラユニットDOU-10やシーケンサー、MIDIデータファイラーなどに保存したり、もう一台のCLP-152/153/154に送って使用することができます。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、プレイ(PLAY)ボタンを押します。

MIDI OUTから、演奏データが送信されます。



- ・ 演奏データを受信させる場合は、データが保存されている機器のMIDI OUTと、クラビノーバのMIDI INを接続します。保存されている側から送信が行われると、自動的にクラビノーバが受信します。



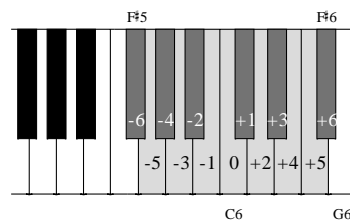
- ・ メトロノームがオンのときと、レコーダーの録音/再生中は、送信も受信もできません。

トランスポーズ(移調)して外部音源を鳴らす(MIDIトランスポーズ)

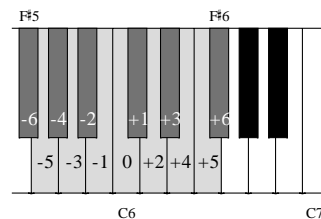
クラビノーバで外部の音源を鳴らす場合に、送信するMIDIデータをトランスポーズすることによって、外部音源の演奏だけ移調させることができます。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、F#5 ~ F#6の鍵盤を押すと、図のように移調量が設定されます。

CLP-152



CLP-153/154



- ・ 電源をオンにしたときは、移調量 = 0 (標準の音程) に設定されます。

MIDIデータフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH] [kk] [vv]

9nH = ノートオン/オフ情報(n = チャンネルNo.)

kk = ノートNo.

CLP-152 (送信: 22 ~ 109 = A_#-1 ~ C_#7)

(受信: 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

CLP-153/154 (送信: 15 ~ 114 = D_#-1 ~ F_#7)

(受信: 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

vv = ベロシティ(ノート・オン = 01H ~ 7FH、ノート・オフ = 0)

[8nH] [kk] [vv]

8nH = ノート・オフ情報(n = チャンネルNo.)

kk = ノートNo.

CLP-152 (送信: 22 ~ 109 = A_#-1 ~ C_#7)

(受信: 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

CLP-153/154 (送信: 15 ~ 114 = D_#-1 ~ F_#7)

(受信: 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

vv = ベロシティ(ノート・オフ = 00H ~ 7FH)

ノート・オフの8nHは受信のみ、送信は9nH(vv = 00H)で行います。

2. コントロールチェンジ

[BnH] [cc] [vv]

BnH = コントロール情報(n = チャンネルNo.)

cc = コントロールNo.

vv = コントロール値

cc コントロール 値(vv)

07H ボリューム(受信のみ)

00H : -

6FH : -3dB

7FH : ±0dB

0AH パンポット(受信のみ)

00H ~ 17H : 左6

18H ~ 1FH : 左5

20H ~ 27H : 左4

28H ~ 2FH : 左3

30H ~ 37H : 左2

38H ~ 3FH : 左1

40H ~ 47H : 中央

48H ~ 4FH : スケーリングパン

50H ~ 57H : 右1

58H ~ 5FH : 右2

60H ~ 67H : 右3

68H ~ 6FH : 右4

70H ~ 77H : 右5

78H ~ 7FH : 右6

0BH エクスプレッション(受信のみ)

00H : -

6FH : -3dB

7FH : ±0dB

40H ダンパーペダル 00H ~ 3FH : オフ

40H ~ 7FH : オン

42H ソステヌートペダル

00H ~ 3FH : オフ

40H ~ 7FH : オン

43H ソフトペダル 00H ~ 3FH : オフ

40H ~ 7FH : オン

5BH リバースデプス(CLP-154のみ)

00H ~ 7FH : 16段階

78H オールサウンド・オフ(受信のみ)

00H

79H リセットオールコントローラー(受信のみ)

00H

7AH ローカルコントロール(受信のみ)

00H : オフ

7FH : オン

7BH オールノート・オフ(受信のみ)

00H

7CH オムニ・オフ/オールノート・オフ(受信のみ)

00H

7DH オムニ・オン/オールノート・オフ(受信のみ)

00H

3. プログラムチェンジ

[CnH] [pp]

CnH = プログラム情報(n = チャンネルNo.)

pp = プログラムNo.

CLP-152/153 :

pp 音色名

00H ピアノ

01H クラビノーバトーン

02H エレクトリックピアノ

03H ハープシコード

04H オルガン

CLP-154 :

pp 音色名

00H ピアノ1

01H ピアノ2

02H クラビノーバトーン

03H エレクトリックピアノ

04H ハープシコード

05H オルガン

4. システムリアルタイムメッセージ

[rr]

rr コントロール

F8H タイミングクロック*1

FAH スタート

FCH ストップ

FEH アクティブセンシング*2

*1 送信時は96分ごとに1回。外部クロック時の受信は、テンポの96分のタイミングとして受信します。

*2 送信時は約200msecごとに1回。受信時は、400msec以上受信しないと発音が停止します。

オーバーラン・フラミングエラーが起こったときは、すべてのチャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフトペダルをオフにし、オールノート・オフにします。

5. システムエクスクルーシブメッセージ

1 ヤマハMIDIフォーマット

[F0H] [43H] [XnH] [ff].....[F7H]

43H : ヤマハID

Xn : サブステータス + チャンネルNo.

ff : フォーマットNo.

X ff 機能

0 7CH パネルデータ受信

2 7CH パネルデータ・バルクダンプリクエスト

2 7DH モデルIDコード・バルクダンプリクエスト

nはオムニ・オン/オフにかかわらず、受信チャンネルに指定されたチャンネルが有効です。

パネルデータフォーマット

F0H、43H、0nH、7CH、00H、1BH (n = チャンネルNo.)
 53H、4BH、20H、20H (SK)
 43H、4CH、50H、27H、39H、34H (CLP '94)
 3xH、3yH (x,y = バージョンNo.)

[パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + データエンド)
 F7H

パネルデータ項目

音色番号
 デュアル音色
 デュアルオン/オフ
 デュアルバランス
 0
 0
 0

リバーブ(CLP-152/153は0)
 リバーブの深さ(CLP-152/153は0)
 タッチセンシティブィティ(CLP-152/153は0)
 ソフト/ソステヌート(CLP-154は0)
 スプリットポイント
 0
 テンポ(絶対値 下位バイト)
 テンポ(絶対値 上位バイト)

シーケンスデータフォーマット

F0H、43H、73H
 38H (機種ID)
 06H (バルクID)
 02H (バルクNo.)
 (CLP-152/153) 03H、0FH、0AH、02H
 (データ長 = wxyzH 0x1fd1*2バイト)
 (CLP-154) 0DH、00H、07H、0CH
 (データ長 = wxyzH 0x683e*2バイト)

[パネルデータ] (シーケンスデータ)
 [チェックサム(1バイト)] = 0 - sum(バルクデータ)
 F7H

モデルIDコード送信フォーマット

F0H、43H、0nH、7DH、00H、10H (n = チャンネルNo.)
 53H、4BH、20H、20H (SK)
 43H、4CH、50H、27H、39H、34H (CLP '94)
 3xH、3yH、20H、20H、20H、20H (x,y = バージョンNo.)
 [チェックサム(1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + 20H)
 F7H

2 クラビノーバMIDIフォーマット

[F0H] [43H] [73H] [xx] [yy] [F7H]

43H : ヤマハID
 73H : クラビノーバID
 xx : 機種ID (38H*)
 yy : サブステータス

yy 機能
 02H 内部クロック
 03H 外部クロック
 13H マルチティンバー機能オフ*2
 14H クラビノーバ共通音色マルチティンバー機能オン*2
 15H マルチティンバー機能オン*2
 61H MIDIスタートキャンセル・オン*3
 62H MIDIスタートキャンセル・オフ*3
 7nH オールノート・オフ、受信チャンネル = n + 1、オムニ・オフ

*1 yy = 2, 3, 13, 14, 15, 7nのときは、機種ID(38H)の代わりに、クラビノーバ共通ID(01H)を受信した場合も受け付けます。

*2 [13H]、[14H]、[15H]を受信すると、すべてのコントロールチェンジをリセットします。また[14H]、[15H]を受信したときは、いつも同じ初期設定になるように音色などもリセットします。
 *3 [61H]を受信すると、スタート(FAH)を受信してもスタートしません。また、ストップ(FCH)やタイミングクロック(F8H)には影響を与えません。
 [62H]はこの機能のキャンセルに使用します。

3 特殊コントロール

[F0H] [43H] [73H] [xx] [11H] [0nH] [cc] [vv] [F7H]

43H : ヤマハID
 73H : クラビノーバID
 xx : 機種ID (38H*)
 11H : クラビノーバ特殊コントロール
 0nH : コントロールMIDIチェンジ + チャンネルNo.
 cc : コントロールNo.
 vv : 値

cc	コントロール	値(vv)
08H	デュアルバランス	00H : 左側音色最大 7FH : 右側音色最大
1BH	メトロノーム・オン/オフ(受信のみ)	00H : オフ 01H : オン
26H	タッチセンシティブィティ(CLP-154のみ)	00H : ミディアム 01H : ソフト 02H : ハード 03H : オフ
59H	リバーブ(CLP-154のみ)*1	00H : オフ 01H : ルーム 02H : ホール1 03H : ホール2 04H : コズミック
5AH	デュアル・オン/オフ	00H : デュアル・オフ 01H : デュアル・オン(ノーマル) 02H : デュアル・オン(左側音色1オクターブ上) 03H : デュアル・オン(右側音色1オクターブ上)
5CH	デュアルボイス	vv : デュアルボイス音色

*1 [59H]の場合は、機種ID(38H)の代わりにクラビノーバ共通ID(01H)を受信した場合も受け付けます。

4 アブソリュート・テンポ

[F0H] [43H] [73H] [xx] [11H] [1nH] [cc] [dd] [F7H]

43H : ヤマハID
 73H : クラビノーバID
 xx : 機種ID (38H)
 11H : クラビノーバ特殊コントロール
 1nH : コントロールMIDIチェンジ
 (送信時 : n = コントロール・チャンネルNo.)
 (受信時 : どのチャンネルNo.でもよい)
 cc : アブソリュート・テンポ/L
 dd : アブソリュート・テンポ/H
 (テンポ = ddH*128+cc)

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 1-16	1 1-16	
Mode	Default Messages	3 x *****	1 OMNI on, OMNI off x	
Note Number :	True voice	22-109/22-109/15-114 *****	0-127 21-108	
Velocity	Note on Note off	9nH, v=1-127 x 9nH, v=0	v=1-127 x	
After Touch	Key's Ch's	x x	x x	
Pitch Bender		x	x	
Control Change	07 10 11 64 66 67 91 120 121	x x x x / x / x x	 x / x / 	Volume Pan pot Expression Damper Sostenuto Soft Pedal Reverb Depth All sounds off *1 Reset All Controllers
Program Change :	True #	0-4/0-4/0-5 *****	0-4/0-4/0-5 0-4/0-4/0-5	
System Exclusive				
System Common :	Song Pos : Song Sel : Tune	x x x	x x x	
System Real Time :	Clock : Commands			
Aux Mes- sages :	Local ON/OFF : All Notes OFF : Active Sense : Reset	x x x	 x	(123-125) *1
Notes : *1=receive (120,121,123) if omni off or multi-timbre on				

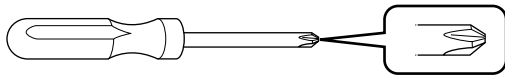
Mode 1 : OMNI ON, POLY Mode 2 : OMNI ON, MONO : Yes
 Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO x : No

活
用
編

クラビノーバの組み立てかた【CLP-152】

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

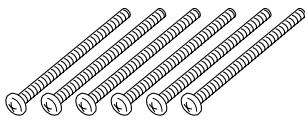
1 + (プラス)のドライバーを用意します。



2 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VS31600

長いネジ(金色) × 6
(5 × 40mm)



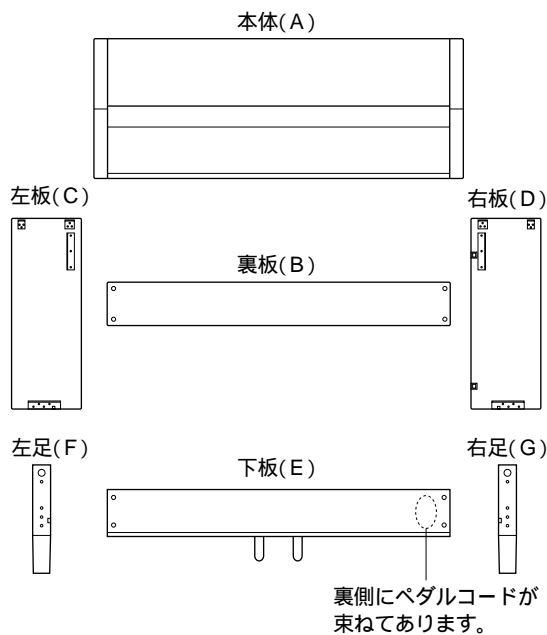
短いネジ(頭大) × 4
(6 × 18mm)



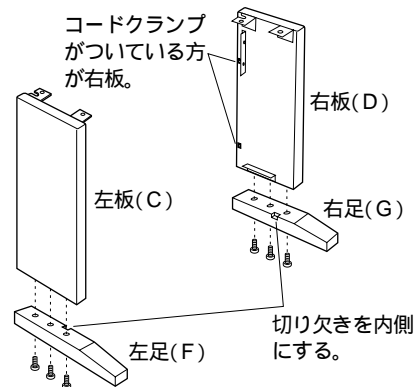
短いネジ(頭小) × 4
(6 × 16mm)



細いネジ(黒色) × 4
(4 × 25mm)



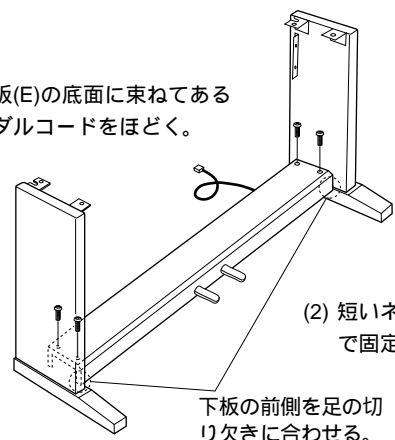
3 右板(D)と右足(G)、左板(C)と左足(F)を固定します。



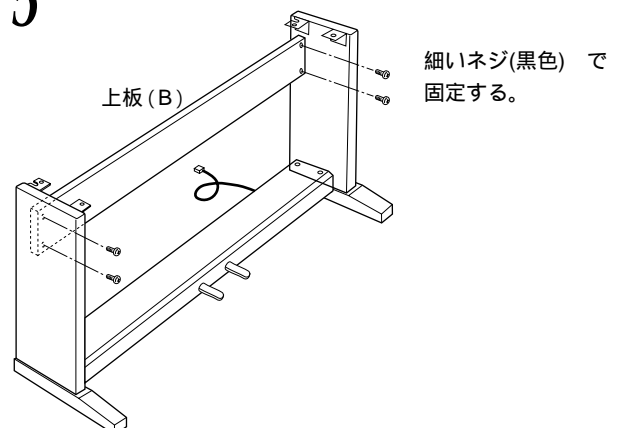
長いネジ(金色) で固定する。

4 下板(E)を固定します。

- (1) 下板(E)の底面に束ねてあるペダルコードをほどく。

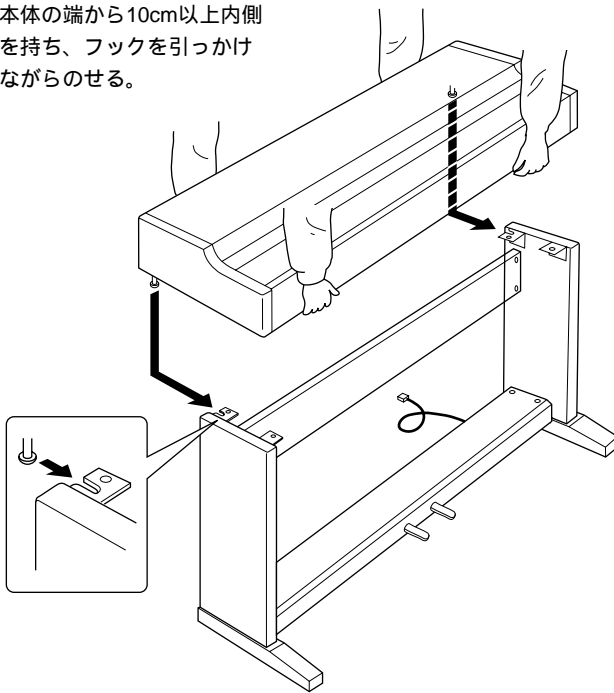


5 上板(B)を固定します。



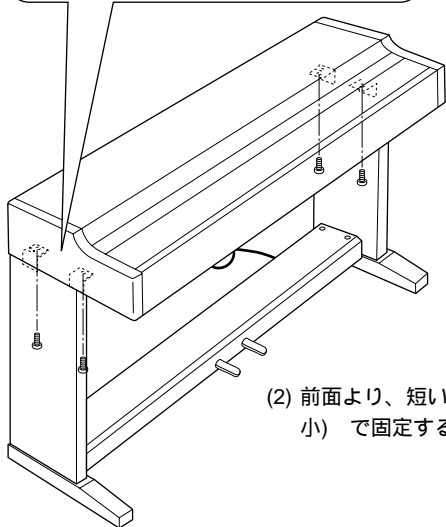
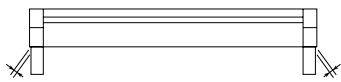
6 本体(A)をのせます。 指をはさまないように十分注意してください。

本体の端から10cm以上内側を持ち、フックを引っかけながらのせる。



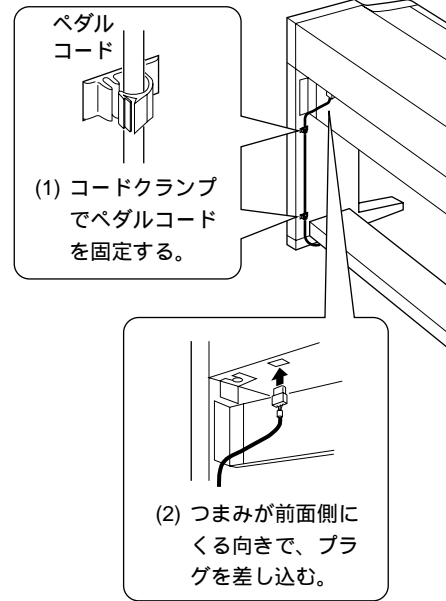
7 本体(A)を固定します。

(1) 前面から見て、本体の張り出し部分が左右均等になるように調整する。

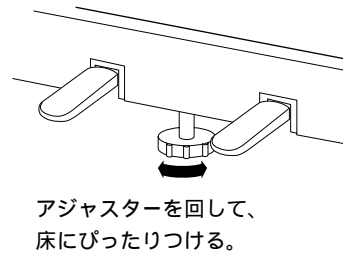


(2) 前面より、短いネジ(頭小)で固定する。

8 ペダルコードを接続します。



9 アジャスターを回します。



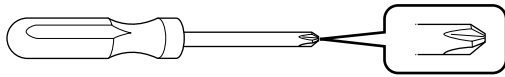
■ 組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドア等がクラビノーバにあたりませんか？
→クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

クラビノーバの組み立てかた【CLP-153/154】

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。
- ・ CLP-153の形状で説明しています。CLP-154と異なるところがありますが、組み立てかたは同じです。

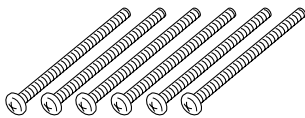
1 + (プラス)のドライバーを用意します。



2 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VS31610

長いネジ(金色)× 6
(5×40mm)



短いネジ(頭大)× 4
(6×18mm)



短いネジ(頭小)× 4
(6×16mm)



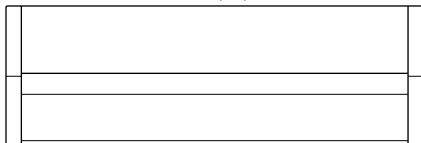
細いネジ(黒色)× 2
(4×16mm)



コードクランプ× 2



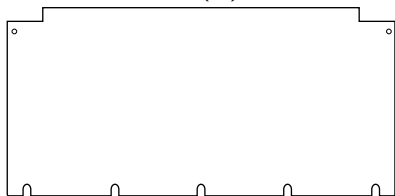
本体(A)



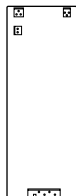
左板(C)



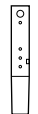
裏板(B)



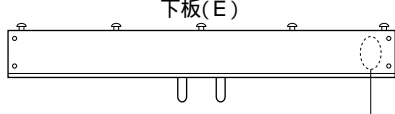
右板(D)



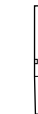
左足(F)



下板(E)

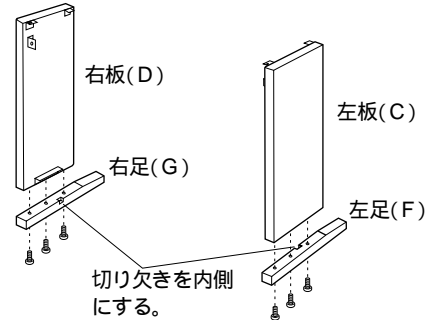


右足(G)



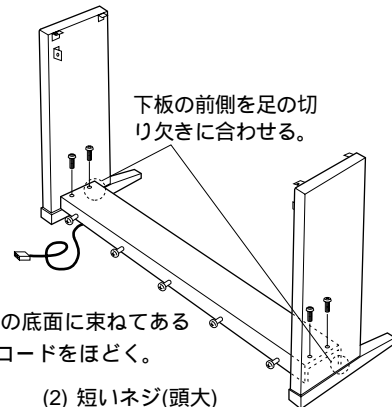
裏側にペダルコードが束ねてあります。

3 右板(D)と右足(G)、左板(C)と左足(F)を固定します。



長いネジ(金色) で固定する。

4 下板(E)を固定します。

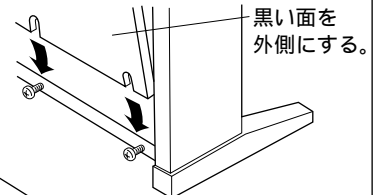


(1) 下板(E)の底面に束ねてあるペダルコードをほどく。

(2) 短いネジ(頭大)で固定する。

5 裏板(B)を固定します。

(1) 裏板(B)を少しなめしながら、下板(E)のネジに、裏板下端の切り欠きを引っかける。

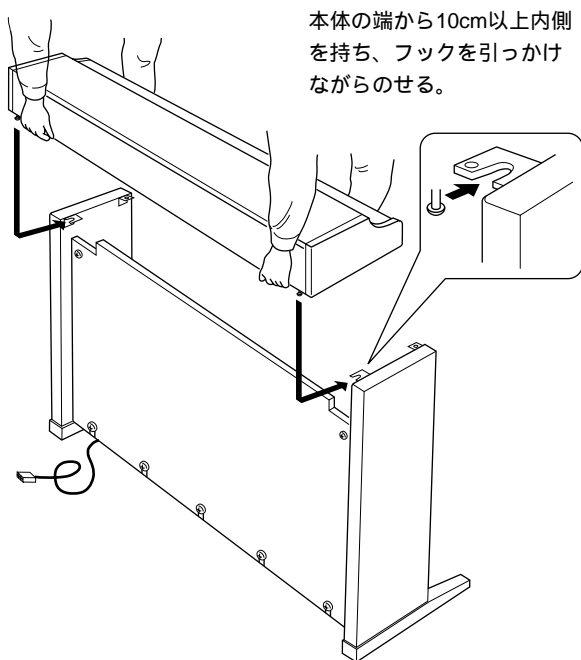


黒い面を外側にする。

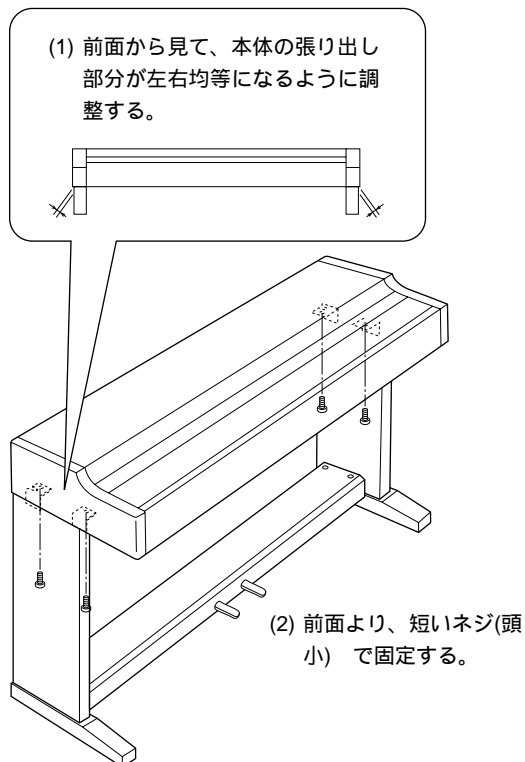
(2) 細いネジ(黒色)で固定する。

(3) 下板(E)のネジを固定する。

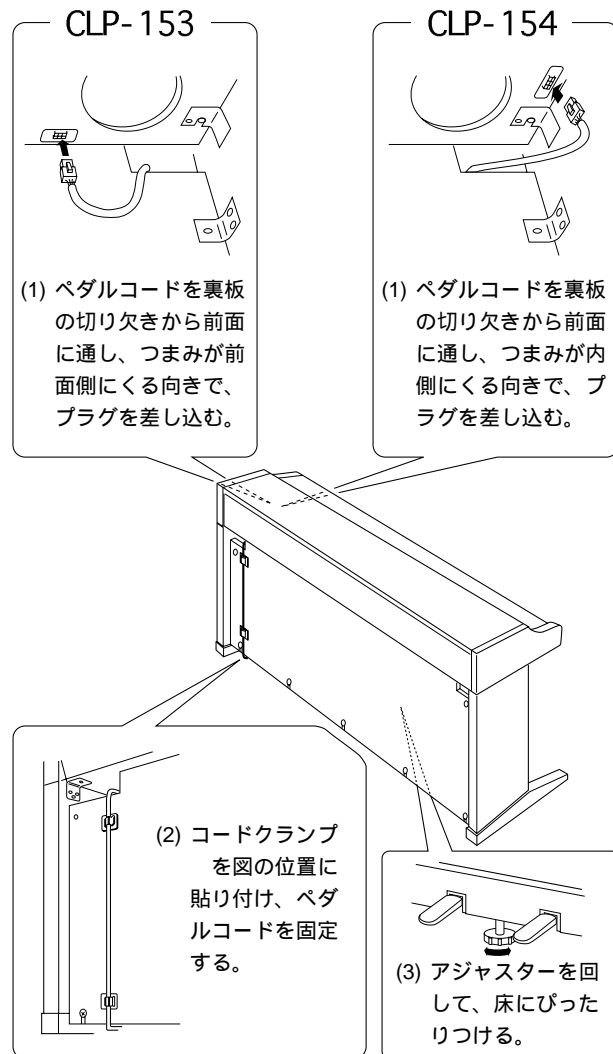
6 本体(A)をのせます。
指をはさまないように十分注意してください。



7 本体(A)を固定します。



8 ペダルコードを接続し、アジャスターを回します。



■ 組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドア等がクラビノーバにあたりませんか？
→クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

仕様

CLP-152/153

- 鍵盤 CLP-152 76鍵 (E0 ~ G6)、イニシャルタッチ付き
CLP-153 88鍵 (A-1 ~ C7)、イニシャルタッチ付き
- 音源 AWM音源
- 最大同時発音数 最大28音
- 音色 ピアノ、クラピノーバトーン、エレクトリックピアノ、ハープシコード、オルガン
- 効果・機能 デュアル、トランスポーズ、ピッチコントロール、メトロノーム、テンポ、デモ演奏
- レコーダー 録音/再生、早送り
- その他コントロール ... 電源スイッチ、ボリューム、ダンパーペダル、ソフト/ソステヌートペダル
- 付属端子 ヘッドフォン端子(x2)、
AUX出力端子(L/L+R、R) : 出力インピーダンス600 Ω、
AUX入力端子(L、R) : 入力インピーダンス10k Ω / 入力感度-10dBm、
MIDI端子(IN、OUT)
- メインアンプ 20W × 2
- スピーカー 16cm × 2
- 定格電源 AC100V、50/60Hz
- 消費電力 30W
- 外装 仕上げ：ダークローズウッド調仕上げ
CLP-152 間口：122.4cm 奥行：47cm 高さ：81.5cm(97.2cm*)、
重量：43kg
CLP-153 間口：139.2cm 奥行：47cm 高さ：81.5cm(97.2cm*)、
重量：50kg
- 装備 回転式キーカバー兼譜面立て
- 付属品 椅子・BC-8、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)

CLP-154

- 鍵盤 88鍵 (A-1 ~ C7)、イニシャルタッチ付き
- 音源 AWM音源
- 最大同時発音数 最大32音
- 音色 ピアノ1、ピアノ2、クラピノーバトーン、エレクトリックピアノ、ハープシコード、オルガン
- 効果・機能 リバース、デュアル、タッチセンシティブィティ、トランスポーズ、ピッチコントロール、メトロノーム、テンポ、デモ演奏
- レコーダー 2トラック録音/再生、早送り、パート・オフ
- その他コントロール ... 電源スイッチ、ボリューム、ダンパーペダル、ソステヌートペダル、ソフトペダル
- 付属端子 ヘッドフォン端子(x2)、
AUX出力端子(L/L+R、R) : 出力インピーダンス600 Ω、
AUX入力端子(L、R) : 入力インピーダンス10k Ω / 入力感度-10dBm、
MIDI端子(IN、OUT、THRU)
- メインアンプ 20W × 2
- スピーカー 13cm × 2
- 定格電源 AC100V、50/60Hz
- 消費電力 35W
- 外装 仕上げ：ダークローズウッド調仕上げ
間口：141.4cm 奥行：50cm 高さ：89.1cm(106.1cm*)、重量：58kg
- 装備 スライド式キーカバー、折りたたみ式譜面立て
- 付属品 椅子・BC-8、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)

* 高さ()内はキーカバー兼譜面立て、または譜面立てを立てた場合仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

オプション(別売品)のご紹介

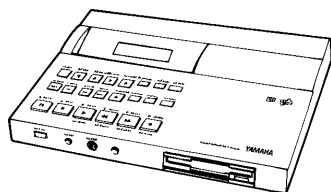
ヘッドフォンHPE-160

¥5,500



ディスクオーケストラユニット DOU-10

¥69,000



ディスクレコーダー DRC-20

¥50,000



DOU-10対応ソフト

ディスクオーケストラ・コレクション
オーケストラ音源をバックに、ピアノプレイが楽しめます。

下記7シリーズが発売されています。

- ・クラシック
- ・ジャズ
- ・ポピュラー
- ・スクリーン
- ・ファミリー
- ・メソッド
- ・弾き語り

(各巻 ¥3,000 ~ ¥5,000)

DOU-10/DRC-20対応ソフト

ピアノプレーヤソフト

ピアノソロ鑑賞用としてお楽しみいただけます。

(アーティストシリーズ各巻 ¥5,500より)

(リスニングシリーズ他、各巻 ¥4,000より)

ピアノ・ア・ラ・モード

クラビノーバ、ピアノプレーヤ共用のアンサンブルソフトです。

(各巻税込価格 ¥1,854 ~ ¥1,869)

表示の価格には、消費税は含まれていません。

サービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。
(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1ヵ年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。
- お買い上げ店による修理調整
故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。
- サービスのご依頼
サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万が一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

〔修理受付および修理品お持込み窓口〕

- 北海道サービスセンター 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
TEL. 011(513)6036
- 仙台サービスセンター 〒983 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL. 022(236)0249
- 首都圏サービスセンター 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL. 044(434)8100
- 東京サービスステーション* 〒108 東京都港区高輪2-17-11
(*お持込み修理のみお取扱い) TEL. 03(5488)6625
- 浜松サービスセンター 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL. 053(465)6711
- 名古屋サービスセンター 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL. 052(652)2230
- 大阪サービスセンター 〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL. 06(877)6262
- 四国サービスステーション 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
TEL. 087(22)3045
- 広島サービスセンター 〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL. 082(874)8787
- 九州サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2134
- 〔本 社〕
カスタマーサービス部 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL. 053(465)1158

- 北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
営業課 TEL. 011(512)1550
- 仙台支店 / 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
営業課 TEL. 022(222)6149
- 東京支店 / 〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
鍵盤推進課 TEL. 03(5488)6442
- 関東支店 / 〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
営業推進課 TEL. 03(5488)1680
- 名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
鍵盤推進課 TEL. 052(201)6140
- 大阪支店 / 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
鍵盤推進課 TEL. 06(252)7541
- 広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
営業課 TEL. 082(244)8748
- 九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
営業課 TEL. 092(472)2152
- 電子楽器営業部
クラビノーバ営業課 / 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 053(460)8275

住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社